



Web Fairy Paradise

改訂版2013/9/25

第63号

今月のフェアリー詰将棋

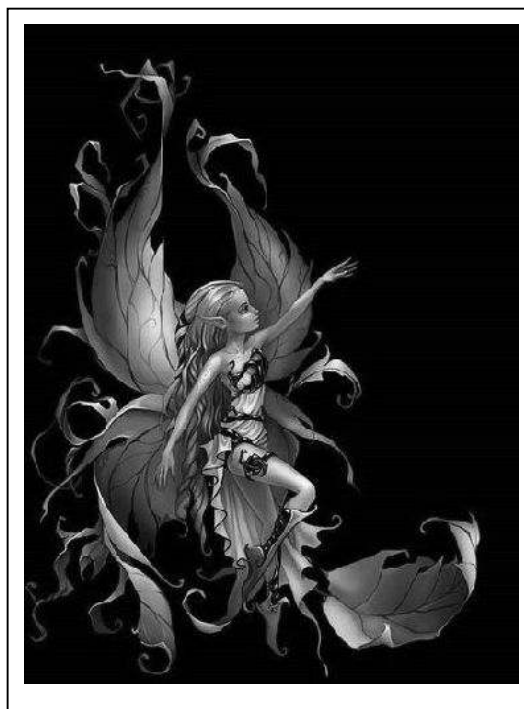
- ・ 第55回 WFP フェアリー作品展(再掲)
- ・ 第56回 WFP フェアリー作品展
- ・ 上田吉一作品展
- ・ 第70回推理将棋出題
- ・ 第71回推理将棋出題
- ・ 王手が9割(一乗谷酔象)再掲・追加

結果発表

- ・ 第54回 WFP フェアリー作品展
- ・ 第69回推理将棋出題

読み物

- ・ 青木みどり氏フェアリー作品一覧
- ・ 逆算せよ+参加決定(神無太郎)



2013/9



新居浜太鼓祭

この時期にはいつもこの話題なんですが、10月16日から3日間新居浜太鼓祭りが開催されます。自身地元の出身ではないので思い入れはあまりないのですが、今年はちょっと違います。というのも私の住んでいる地区は金栄校区なんですが、新居浜でも珍しい歴史上大人の太鼓台が無かった校区でした。それが有志の尽力により太鼓台を製作し平成25年度より祭り参加出来ることになりました。上記写真は先日行われたお披露目式の模様です。私は仕事でしたがちょっととだけ覗いて見ました。法被は赤くカープファンの私にはピッタリとちょっとだけ喜んでおります。まあ太鼓を担ぎはしないでしょうけどね。

さて今号の目玉は、フェアリー界(もちろん他の分野でもですが)の大物・上田氏の紙上登場です。ネット環境にない上田氏ですが、橘氏が橋渡しとなって今回登場の運びとなりました。いきなり個展開催で3題お披露目となります。次号では WFP 作品展にも登場予定で今後の活躍が注目です。今回の個展では細かいルールの説明も書いてありますのでこれまで敬遠していた皆さんも是非チャレンジ頂き、たくさんの方の解答で盛り上げていただければと思います。よろしくお祈りします。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第61号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

*ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

イラスト・素材提供：幻想素材サイト First Moon

<http://www.first-moon.com/>

*表紙のイラストを使用させて頂いております。

第55回WFP作品展(再掲)

第56回WFP作品展出題 担当：神無七郎

今月は第55回出題の再掲載と、第56回の新規出題です。事情により雑談は省略し、直ちに
出題作の説明に入らせていただきます。

〔第55回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第55回出題はDD++氏の作品が1題、変寝夢氏、上谷直希氏、橘圭伍氏の作品が各3題、神無太郎氏の作品4題の計14題の出題です。

55-1 は上谷氏の自陣実戦型シリーズの一つ。ルールは純粋な協力詰です。やはり1題はこんな作品が欲しいですね。

55-2 は神無太郎氏の作品。これも協力詰ですが解が4つあります。4つの解すべてを求めてください。

55-3、55-4、55-9 の3題は変寝夢氏の作品。いずれも「縦シリンダー盤」を使った作品です。

「縦シリンダー盤」は盤の上下を繋げた変則盤で、1段目と9段目の同じ筋同士が連結されています。このため行き所ない駒の概念はありません。また、飛や香が縦方向に何周もできますが、余分に周回してもその分は無視します。

「縦シリンダー盤」がどのようなものか、作者自身が用意された例題をご覧ください。

〔例題〕変寝夢氏作

縦シリンダー盤協力詰3手 (2解)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王

持駒 飛 角

【解答】

1) 77 角 12 玉 11 飛 まで 3 手 (詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									飛
									王

持駒 なし

2) 74 角 19 玉 11 飛 まで 3 手 (詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									飛
									王

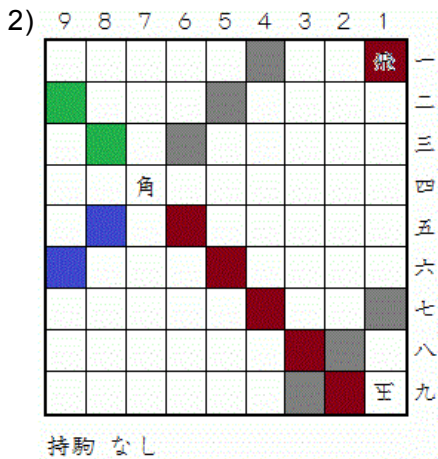
持駒 なし

慣れないと両方とも詰んでいるように見えないかもしれませんが、確かに詰んでいます。角の利きに色を塗って、利き筋を確かめてみましょう。

1)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									飛
									王

持駒 なし



この図で分かるように縦シリンダー盤では角の利き筋が盤の端をまたぐときに、筋違いになります。これは将棋盤の段数が奇数段であるためですが、この性質により角はかなり強力な駒として働きます。また、最終手の飛は自然に両王手（1枚の駒による両王手！）となっています。

ただし、飛1枚で両王手が掛かるので、最終飛の打ち場所は非限定じゃないかと考えたら、それは間違いです。別の場所から飛を打つと、1)では21玉、2)では21玉と逃げられてしまいます。駒1枚の両王手はシリンダー盤の特徴の一つですが、通常の両王手と同様、万能ではありません。

さて、ここで今回の「縦シリンダー盤」についての重要なルール設定を説明しておかねばなりません。それは「**通過成**」ができるということです。

通常、駒が成るには、駒の元の位置か、駒の移動先が可成地点でなくてははいけません。しかし、今回の出題では飛角香のような走り駒が可成地点を通過するだけで成れるというルール設定で作られています。例えば上の例題では、

74角 19玉 28角成！

と進めることも可能なわけです。これは2)の解の説明図で灰色に塗った利き筋を辿ると分かりやすいと思います。この利き筋は途中で63・42・51という可成地点を通過するため、出発地点の74と到着地点の28が共に可成地点でなくとも成れるというわけです。

私の調べた範囲では、過去に発表された「縦シリンダー盤」でこのような「成」の概念を使った作品はなく、該当する用語もありませんでした。そこで今回はこれを仮に「**通過成可**」と表したいと思います。実際に手順表面に通過成が現れるかどうかは別として、ルール設定がそ

うなっていることを念頭に解図をしてください。

「通過成」についても一つ補足します。
 例えば19香を18に動かすときに、直接19から18に行く手と、盤を一周して可成領域を通過してから18に不成で行く手があるとします。このとき、両者は区別せず、単に「18香」としてください。「成れるのに成らなかった」と「元から成れない」を厳密に区別するルール設定も可能だと思いますが、今回の出題作品に関してはこのルール解釈で解図して戴くようお願いいたします。（※前回の出題稿ではこの点が不明確だったので、今回の原稿で追加しました。）

55-5 と 55-6 は、橋圭伍氏によるキルケ協力詰の小品。55-13 という大ボスに挑む前に、ぜひとも解いておきたい作品です。

55-7 と 55-8 は、上谷氏が最近研究を進めている複合マドラシです。キルケとマドラシは各ルールの効果を独立に考えることができますが、背面とマドラシの組み合わせの場合、どちらを先に評価するかで挙動が異なる場合があります。今回の作品はルール名通り「背面」→「マドラシ」の順に利きの変化を評価してください。複合マドラシについてはWFP55号の「裸玉鑑賞」の記事や第49回WFP作品展等で取り上げられているので、これを読めばルールの詳細や手筋などについて知ることができます。

55-10 と 55-11 は、神無太郎氏による性能変化系の協力自玉スタイルメイトです。両者ともかなりの難問ですので、心して取り組んでください。

55-12 は、非標準駒数+取禁条件による長手数裸玉作品です。手数が長いので後ろに置きましたが、論理的に解けば、スッキリと解決するはず。命名も有力なヒントになっているので、怖がらずに挑戦してみてください。

55-13 は、作者のキルケに対する情熱と確かな技術の蓄積が結実した大作。「世界線」という命名に作者は何を込めたのか。ぜひ、ご自身の手で解いて確かめてください。

なお、この作品は受方持駒制限があります。指定された駒種・駒数の範囲で解いてください。

55-14 は、第55回の記念にDD++氏が送ってくださった「午後のマネ将棋」です。果たして「55」にちなんだ条件から、どんな手順が飛び出すのでしょうか？

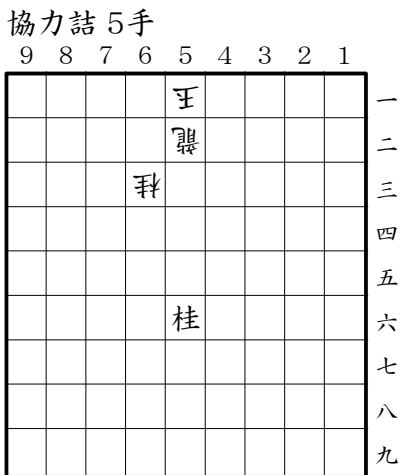
〔第56回作品展各題への補足説明〕

第 56 回出題も前回と同様、計 14 題の出題です。今回も出題作品は多種多様。新ルールが登場したり、超長手数作が登場したりしますが、怖がらずにチャレンジしてください。

56-1 は変寝夢氏のパオを使った作品。パオは中国象棋 (xiangqi) の駒で、単に動くときは飛と同じ、駒を取るときは、何か駒を 1 枚飛び越してから取るという動きをします。私たちにとってはチャイニーズピースとして、チェスプロブレムで見る機会の方が多いかもかもしれません。漢字表記は**炮・砲・包**など様々ですが、ここでは**包**と表記します。

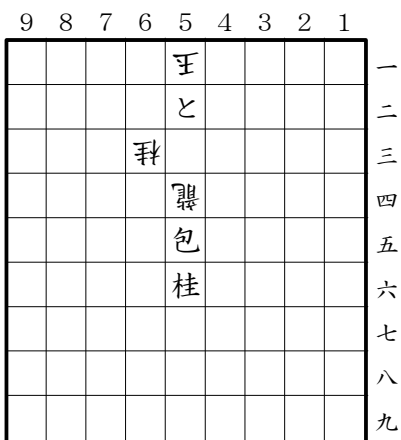
パオを使ったフェアリー作品はかなり作られています。ここではすべての手がパオのジャンプに関連している作品をご覧ください。

[参考図] パオ (包) を使った詰将棋
汐多ダダ (詰将棋パラダイス 1991 年 8 月)



持駒 包 歩

【解答】
55 包 43 龍 53 歩 54 龍 52 歩成 まで 5手
(詰上り)



持駒 なし

初手「55 包」が 52 龍を飛び越すパオらしい

手。これに対して受方はジャンプ台を除去する「43 龍」で受けます。3 手目「53 歩」もパオらしい王手。グラスホッパーも駒を飛び越す点では似ていますが、グラスホッパーが飛び越した直後のマスに着地するのに対し、パオは飛び越した先の任意の地点に着地します。4 手目「54 龍」はパオが 2 枚以上は飛び越せないことを利用した受け。最終手「52 歩成」に対し、同龍でも同玉でもパオの利きが玉に当たるため、受けがないことを確認してください。

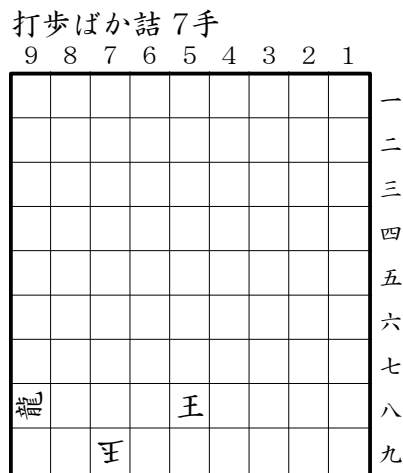
なお、パオに限りませんがフェアリー駒が使われた場合、特に指定のない限り駒数は出題図に現れた駒数がすべてです。つまり **56-1** ではパオの枚数は盤上の 1 枚と持駒の 2 枚の計 3 枚です。もっとも、この作品では受方が余分にパオを持っていても手順に影響はありません。

56-2、56-3 も本作品展では初のお目見えとなるルール。変寝夢氏による中立駒を使った作品です。中立駒とは先後どちらも自駒のように動かせる駒で、その詳細については変寝夢氏ご自身が WFP61 号に「中立駒の紹介」という優れた記事を書かれています。初めて中立駒を使った作品を解図・鑑賞する場合は、上記の記事を必ず読んでください。

過去の作品例もご覧いただきましょう。ここでは中立駒の表記は盤上では横向きの駒文字で、持駒や地の文では駒の横に「n」の文字を付けて表記します。

[参考図] 中立駒を使った詰将棋
上田吉一

(Problem Paradise 1998 年 11 月、ツイン a)



攻方持駒なし

受方持駒残り n

※「受方持駒 残り n」は受方が通常の残り駒の枚数分中立駒を持っていることを示す。

【解答】

99n 龍 89n 歩 88n 歩 89n 銀 88n 銀 78 玉
79n 歩 まで 7 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一										一
二										二
三										三
四										四
五										五
六										六
七										七
八		銀	王			王				八
九	龍		歩							九

攻方持駒なし
受方持駒残りn

初手「99n 龍」は王手。名称は「中立」ですが相手の手番では相手の駒として働くので、両方にとって敵駒のようなものです。つまり受方はこれを放置できません。考えてみれば、初形ですでに自玉に王手が掛かっていたので、これは一種の逆王手です。

それに対する2手目「89n 歩」が、中立駒らしい受け。中立駒には「行き所のない駒」の概念がないのです。

すぐにこの歩を取ると手が続かないので、3手目は「88n 歩」の開き王手。中立駒が攻方の手番で動く場合は、動く方向も攻方としての方向になります。また、「可成地点」もその手番にとっての「可成地点」が適用されます。つまり「88n 歩成」とはできないわけですね。

4手目「89n 銀」は味の良い限定合。龍ではなく銀で歩を取ろうというわけですね。5手目はその銀で歩を取り（ここで「中立駒を取れる」という設定が明示的な形で現れました）、7手目その歩を「79n 歩」と打ちます。「79 歩」ではありません。中立駒は取られると駒台に載りますが、取られた後も依然として中立駒です。

詰上りは「同 n 銀」や「同 n 龍」という手が見えますが、どちらも自玉への王手となるので指せません。従ってこれで詰んでいます。

なお、ここで紹介した作品はツインで、以下に示す b) とセットで提示されました。

b) 98n 龍→98n 馬

b) は 98 地点の駒を中立駒の馬に変えただけで、ルール、手数、「受方持駒 残り n」等の設定は変わりません。解答は本稿の末尾に記載しますので、中立駒に慣れるためにもぜひ解いてみてください。

56-4~56-7 の4題は、神無太郎氏による安南系の協力自玉スタイルメイトのシリーズ物です。

この作品群では「安南」だけでなく、安南の拡張版である「安東西」（横にある味方の駒の利きになる）や「安南北」（上下にある味方の駒の利きになる）も登場します。持駒はすべて桂4枚で統一されており、最終形にも共通点があります。果たして4題の共通点は何なのか、これを早く見抜くと解図も楽になるでしょう。

なお今回登場する「安南」「安東西」「安南北」は、いずれも「行き所のない駒」の概念はありません。

56-8~56-10 の3題は、橋圭伍氏による非標準駒数のキルケ協力詰です。配置や持駒で使用する駒種と枚数が指定されているので、その駒のみを使って解いてください。

出題に当たって作者は自ら例題を用意し、この作品群の狙いについて語ってくれています。まずはそれをご覧ください。

〔例題〕橋圭伍

キルケ協力詰 33手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
								龍	王	一	
							王			二	
								歩	歩	歩	三
								歩	歩	龍	四
								歩	歩		五
								歩	歩		六
											七
											八
											九

攻方持駒桂4 香8
受方持駒なし

【解答】

22 香 11 玉 12 香 同金/19 香 21 香成 同玉
22 香 同金寄 13 桂 11 玉 21 桂成 同金/29 桂
13 香 同金 12 香 22 玉 23 香 同玉
15 桂 同金上 24 香 12 玉 23 香成 11 玉

22 杏 同金 23 桂 12 玉 24 桂 同金左
 13 香 21 玉 11 桂成 まで 33 手
 (詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							王	王	圭
						王	香		一
						香		香	二
						香	香	香	三
						香	香	香	四
						香		香	五
									六
									七
									八
							桂	香	九

攻方持駒なし
 受方持駒桂2 香6

【作者のコメント】

攻方取禁ルールは状況によってはキルケで代用できる事に気付いて作り始めた作品群になります。見た目だけで避けられてしまうのを避ける為に例題を用意する事にしました。

飛・金だけは取ると逆王手になるので取れないという事を利用した密室物となります。

この作品は 15 の空きを利用して 11 桂成迄の形に持っていく細かい駒繰りを楽しんで貰える作品だと思います。ただ、キルケではなくて攻方取禁で問題ないのでキルケを使用している特徴は薄いと思います。

キルケ協力詰 (特に長編) を作っていると、守備駒をいくら強化しても、その防御壁を突破される余詰で潰れることがあり、結構悩みの種なのですが、この作品群では使用駒を復活時に逆王手が掛かる駒に限定し、取禁あるいは密室物の味わいも出しています。この例題では取禁的な性質のみがクローズアップされていますが、出題した3題には、キルケならではの手も出てくるのでご期待を。

56-11 は「最近忙しくてなかなか作品ができませんが、忘れられないように1作投稿します」というコメントと共に投稿された、たくぼん氏の作品。たくぼん氏は解答や他の催しで継続的に活躍されているので、担当としては「そんなに投稿がなかったの？」という感じですが、前回の登場が第 50 回なので、ちょっと間が空いたと感じられたのでしょう。

ルールはお得意の強欲協力詰です。

煙詰? いえ、実は別の狙いがあります。

56-12 と 56-13 の2題は荻絵香木氏の超長編。カムバックの挨拶代わりに千手越えで登場とは驚きですが、これを見逃す手はありません。

ルール自体は純粋な協力詰ですので「新しいルールにはついていけなくて…」と敬遠されている方にもぜひ解いていただきたいと思います。

56-14 はこの作品展の「第 56 回」にちなんで投稿していただいた、一乗谷醉象氏の推理将棋です。この「56」という数字、実はある条件下の究極の長手数を示しています。まず、作者のコメントをお読みください。

【作者のコメント】

同々巡りで最後詰みとなる最長数を更新(54手→56手)し、3年越しの謎が氷解しました。当時下記コメントのようにステイルメイトが56手迄可能なのに、詰みが54手迄しかできず、もどかしく思っていました。

第 10 回詰四会フェアリー作品展の結果稿 (WFP35 号)より

「4手目から後手が『同X』を連続する手順、推理将棋」を「同々巡り」問題と呼んでいます。同々巡り問題では、最長何手まで手数を延ばせるか?現在のところ、最終形によって手数は異なりますが判明している最長手数は次のとおり。

- 1) 先手玉が詰み : 54 手
- 2) 先手玉がステイルメイト : 56 手
- 3) 最終手が王手 : 58 手

つまり、詰みで終わる「同々巡り」問題の最長手数作が登場したということです。第 10 回詰四会フェアリー作品展で出題された、一乗谷氏の「馬ががんばった堂々巡り」が参考になると思いますので、こちらもお覧になると良いと思います。

以上のように第 56 回は新ルール、シリーズ物、超長編など盛りだくさんの内容です。これだけ豪華な作品が並んでいるのですから、読者の皆さんもこれを見逃すのは勿体ありません。奮って解答をお寄せください。

解答要項

解答締切：

第 55 回：2013 年 10 月 15 日（火）

第 56 回：2013 年 11 月 15 日（金）

宛先：janacek789@ybb.ne.jp（メールの件名に「解答」の語句を入れてください。）

作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。（原則として毎月 15 日の投稿まで当月号に掲載します。）宛先は解答と同じ janacek789@ybb.ne.jp へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。f m 検討済みなら .fmo 形式のファイル添付を推奨します。

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【縦シリンダー盤】

一段目と九段目の同じ筋同士が繋がった盤。（今回の作品はすべて「通過成可」の設定）

【キルケ】

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される

【マドラシ】

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。

【背面】

敵駒と背中合わせになったとき、互いに利きが入り替わる。

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入り替わる。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイト（王手は掛かっていないが合法手のない状態）にする。

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる

【取禁】

手順中に駒を取る手があってはならない。（ただし「詰」の概念は駒を取れないことを前提としない。あくまで手順中に駒取りの手が現れないだけ。）

【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し

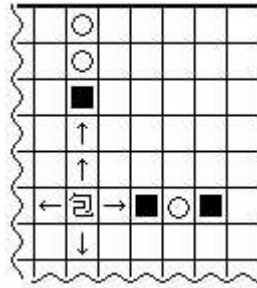
手を復元する。

【パオ】（包）

中国象棋の駒。動くときは飛車と同じ。駒を取るときは必ず一つ駒を飛び越えて取る。

（補足）

- ・飛び越える駒は敵味方どちらでもよい。
- ・グラスホッパーと違って着地場所は飛び越えた駒の隣でなくてもよい。
- ・成ることはできない。特に記述しない限り受方の持駒に包はない。
- ・2つ以上の駒は飛び越せない。



（■は敵か味方の駒。○は取るときに動ける場所。矢印は駒を取らないときに動ける場所。）

【中立駒】（「」あるいは「n 駒」）

どちらの手番でも動かせる駒。

横向きの字か横に n を付加して表記。

→詳細は WFP61 号の「中立駒の紹介」の記事を参照してください。

【安東西】

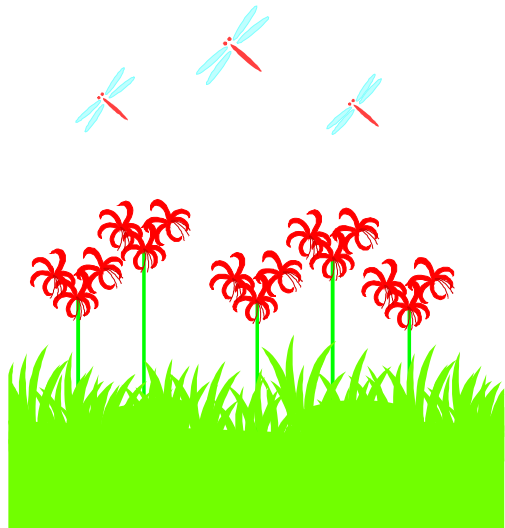
味方の駒が横にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。

【安南北】

味方の駒が前後にいと、その駒の利きになる。複数の駒がある場合は、それらの利きを合成した利きになる。

【強欲】

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。



《第55回 WFP 作品展》(再掲)
 解答締切：2013年10月15日(火)

■ 55-1 上谷直希氏作

協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
						王		六
							歩	七
						馬	王	八
							桂	香
								九

持駒 桂3

■ 55-2 神無太郎氏作 (※4解)

協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
		歩					歩	三
						科		四
						王		五
馬								六
								七
								八
							馬	九

持駒 飛

■ 55-3 変寝夢氏作

縦シリンダー盤協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
						馬		三
						王		四
								五
						飛		六
								七
								八
								九

持駒 角

■ 55-4 変寝夢氏作

縦シリンダー盤協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
角								二
								三
								四
						王		五
						香		六
								七
								八
角								九

持駒 なし

■ 55-5 橋圭伍氏作

キルケ協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 香

■ 55-6 橋圭伍氏作

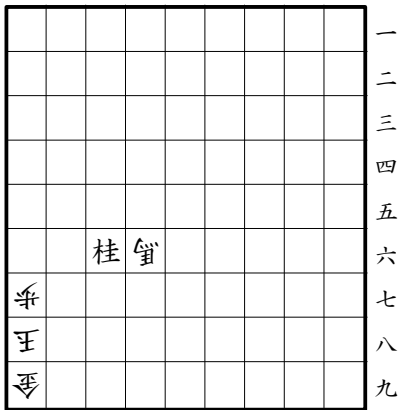
キルケ協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
						王		二
						科		三
						馬		四
						龍		五
						馬		六
								七
								八
								九

持駒 なし

■ 55-7 上谷直希氏作

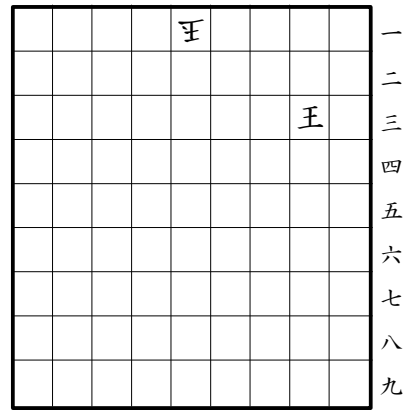
キルケマドラシ協力詰 5手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛角

■ 55-10 神無太郎氏作

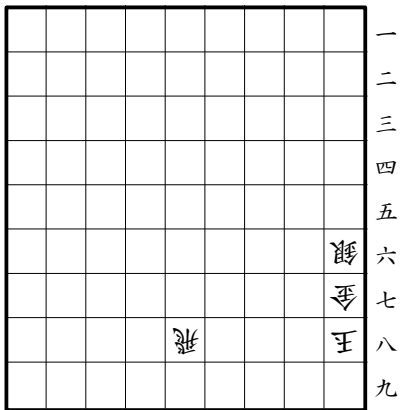
対面協力自玉スタイルメイト 10手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 飛2角桂2

■ 55-8 上谷直希氏作

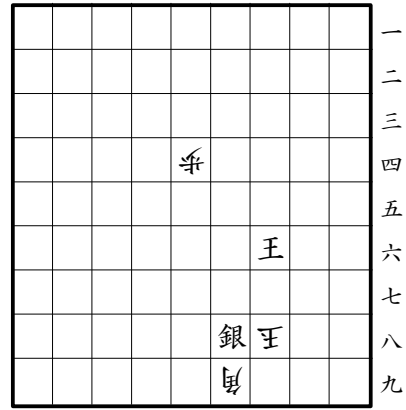
背面マドラシ協力詰 5手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 角金銀

■ 55-11 神無太郎氏作

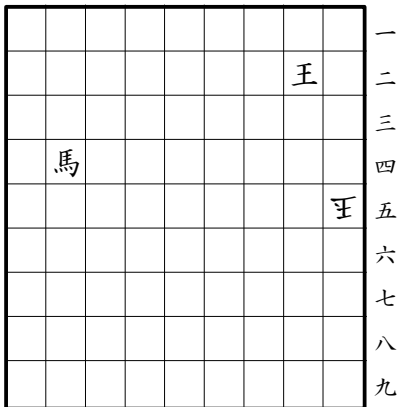
安南協力自玉スタイルメイト 12手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 角香2歩

■ 55-9 変寝夢氏作

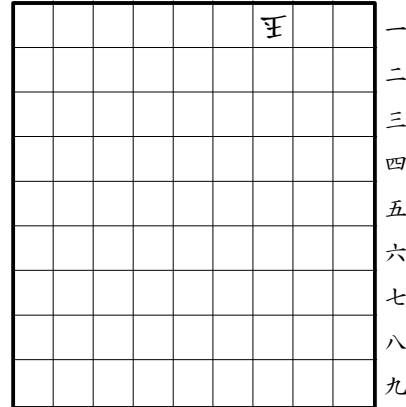
縦シリンダー盤協力自玉詰 8手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



持駒 なし

■ 55-12 神無太郎氏作『柔らかな回廊』

取禁協力詰 83手
9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 飛
受方持駒 金20

■ 55-13 橋圭伍氏作『世界線』

キルケ協力自玉詰 180手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

馬		手		駒						一
		手		歩	と				馬	二
王	歩		ス	歩		歩			香	三
									王	四
駒										五
								香		六
					垂	手	金	桂		七
					桂	桂	銀	歩		八
										九

攻方持駒香
受方持駒なし

■ 55-14 DD++氏作

推理将棋『午後のマネ将棋』

「昨日午後、道場で指してたら真似将棋を仕掛けられたんだ」

「それって1手負けるだけだと思うんだけど。でも君のことだ、ただでは済まさないだろう？」

「ああ、もちろん屈辱的になるよう 55 地点の手で詰ませたよ。それも 55 手目にして 55 ヶ所目の着手だった」

「あいかわらず君は意地が悪いなあ。どんな手順だったんだい？」

「駒取りはなかったね。着手した駒は5種の生駒だけで、最終手以外は安い順に着手したよ。歩は互いに自分から見て右側にあるものから順に着手して、玉の手は歩の手より多かった。飛車の手は縦に動く手が横に動く手より4手多かったね。さあこれでわかるだろう？」

「……あいかわらず君は意地が悪いなあ」

さて、どんな将棋だったのだろうか。

条件

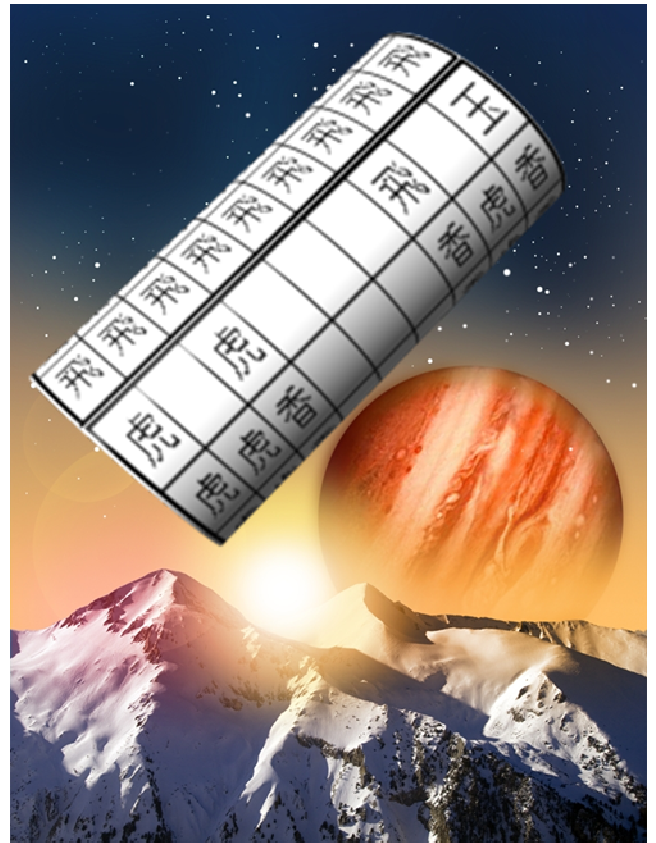
- 1) 55 手で 55 ヶ所に着手して 55 地点の手で詰んだ
- 2) 駒取りのない真似将棋
- 3) 着手された駒は5種の生駒だけで、最終手を除いて安い順に着手した
- 4) 歩は互いに自分から見て右側にあるものか

ら順に着手した

5) 飛車の手は縦に動く手の方が横に動く手よりも4手多かった

6) 玉の手は歩の手より多かった

以上



《第56回 WFP 作品展》

解答締切：2013年11月15日（金）

■ 56-1 変寝夢氏作

協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								王	二
					包				三
									四
									五
						王			六
									七
									八
銀	進							王	九

持駒 包2

(※包=パオ)

■ 56-2 変寝夢氏作

協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
								飛	三
							王		四
					歩				五
									六
									七
									八
									九

持駒 金

(※13 飛は中立駒)

■ 56-3 変寝夢氏作

協力詰 3手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
					馬				三
									四
						王			五
									六
									七
									八
									九

持駒 n香 銀

(※持駒の「n香」は中立駒)

■ 56-4 神無太郎氏作

安南協力自玉スタイルメイト 12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
								王	二
									三
								香	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

■ 56-5 神無太郎氏作

安東西協力自玉スタイルメイト 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								角	一
									二
								王	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

■ 56-6 神無太郎氏作

安東西協力自玉スタイルメイト 12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
						角	王		七
									八
									九

持駒 桂4

■ 56-7 神無太郎氏作

安南北協力自玉スタイルメイト 12手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王		七
									八
		角							九

持駒 桂4

■ 56-8 橋圭伍氏作

キルケ協力詰 35手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

							王	王	一
						王			二
						香	香	香	三
						香	香	香	四
						香	香		五
						香	香		六
							香	香	七
									八
									九

攻方持駒 桂4 香5
受方持駒 なし

■ 56-9 橋圭伍氏作

キルケ協力詰 47手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

	王								一
			王						二
香	香	香	香						三
香	香	香	香						四
香	香	香	香						五
	香	香							六
									七
									八
									九

攻方持駒 桂9 香6
受方持駒 なし

■ 56-10 橋圭伍氏作

キルケ協力詰 77手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
					王				二
								香	三
					香	金	香	香	四
					香	香	香	香	五
					香	香	香	香	六
						香	香	香	七
									八
									九

攻方持駒 桂9 香10
受方持駒 なし

■ 56-11 たくぼん氏作

強欲協力詰 77手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

							又	香	科	一
		銀	歩			馬	と			二
		角	桂			皇				三
銀	香			歩	龍		と			四
歩	香			銀	香	香				五
科	王				香			と		六
					歩		香	香		七
香	歩				香	香	飛			八
香	と	香	と			と	歩	金		九

持駒 なし

■ 56-12 荻絵香木氏作

協力詰 2571手
9 8 7 6 5 4 3 2 1

香	香	科	銀	と			科	皇	一
香	王	又							二
	皇	香	香	香	香		金		三
歩	皇		皇					龍	四
		香	皇						五
			香		桂			王	六
									七
					歩	桂	歩	馬	八
						香		香	九

持駒 歩7

■ 56-13 荻絵香木氏作『BATACO』

協力詰 4247手

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
馬				馬		王				一
銀	金					馬				二
	香			桂					皇	三
	金	桂	金	香	歩					四
		馬	桂	歩		科		皇		五
	馬	馬						皇	王	六
					歩					七
			歩	歩		歩		歩		八
歩	歩	歩				馬	歩			九

持駒 なし

条件

- 1) 56手で詰んだ
- 2) 4手目以降、後手は『同X』（相手が直前に着手した駒を取る手）を連続して指し続けた
- 3) 後手の角が初めて動く前に駒を打つ手が3回あった
- 4) 先手が大駒を着手するときは必ず『歩を突く手、大駒の手、歩を突く手』の順番で指した
- 5) 先手が金を着手するときは必ず『歩を突く手、香の手、金の手』の順番で指した
- 6) 動いた金は全て大駒に取られた
- 7) 不成は1回だけ

■ 56-14 一乗谷酔象氏作

以上

推理将棋『堂々巡りの果て』

「全駒で勝ったよ。

たったの 56 手で詰ましちゃった」

「ホントかい？ どんな将棋だったんだい」

「動いた金は全て大駒に取られたし、不成の手は1回だけだったよ。後手の角が動き出す前に先手の駒打ちが3回もあって序盤は先手ペースで進んだ。なんとか、打たれた駒は全部『同X』で取ったけどね」

「相手は抵抗しただろ」

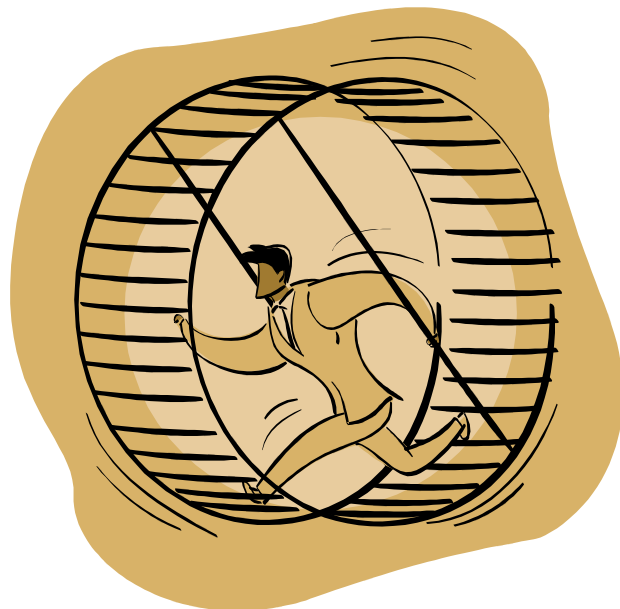
「ああ、先手は指し手の順番に不思議なこだわりがあって、先手の大駒着手は必ず歩突きと歩突きの間だった。『歩を突く手、大駒の手、歩を突く手』の順番で指したってことだ。癪に障ったから、歩も大駒も全部『同X』で取ったけどね」

「相変わらず君は意地悪いな。それから？」

「もう一つ、先手の金の着手は必ず『歩を突く手、香の手、金の手』の順番に指してきたんだ。歩も香も金も全部『同X』で取ったけどね」

「全く強欲な奴だな。まだあるんだろ？」

「強いて言えば4手目から最後まで後手は『同X』の手を指し続けたってことかな」



〔参考図〕中立駒を使った詰将棋

上田吉一（Problem Paradise 1998年11月、ツインb）の解答

97n馬 88n歩 87n歩 88n飛 87n飛 78玉
79n歩 まで7手

☆手順構成はa)と同じ。

2回目の合駒が「n銀」から「n飛」になっています。

さて、どんな将棋だったのだろうか。

上田吉一氏作品展

担当 橋圭伍

今回は、WFP 作品展別項として上田吉一氏の PWC 及び Circe の作品を 3 題出題させて頂きたいと思ひます。

氏は極光Ⅱの中で PWC を詰将棋に導入した方ですが、その当時、細則がなかった為に将棋特有のルールには触れない形で創作を行っていました。今回は数年前に決められた細則に基づいて作られた作品となります。氏はネット環境にはないのですが、今回私が検討及び仲介を担当する事で投稿して頂く事が出来ました。氏から発表はどのような形でも良いとの言を得ましたので今回はより多くの方に解いて頂けるように予め作品を見ている私が担当をして作品発表する場を設ける事にしました。

Circe や PWC といったルールに馴染みがない方も多いため例題を用意しました。また、PWC は数年前に細則が決定し、たくぼん氏が「たくぼんの解図日記」内でルール解説及び PWC 作品展を行った他、100 作程度が世の中に出題されています。

【ルール説明】

【協力】

先後が協力して最短で目的を達成する

【打歩詰】

打歩詰以外でのあらゆる詰みを禁手とする

【Circe】

駒取りがあった時、取られた駒は最も近い将棋での初形位置に復元する

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する

【締め切り】 10 月 15 日

【解答先】 keigotatibana@hotmail.com

件名に WFP 作品展解答の明記をお願いします。
FM 使用可です。
短評はこちらで纏めて、氏に送ります。

1. Circe 打歩協力詰 125 手

										一
										二
								王		三
將										四
							飛			五
	香							王		六
飛	ス						歩	桂		七
							金			八
										九

持駒 双方なし

2. PWC 打歩協力詰 133 手

										一
						香				二
										三
		香								四
										五
香	馬									六
王	王									七
						銀				八
						歩				九

持駒 双方なし

3. PWC 打歩協力詰 77 手

										一
						香				二
										三
										四
										五
								龍		六
						王	金			七
					銀					八
							王	香		九

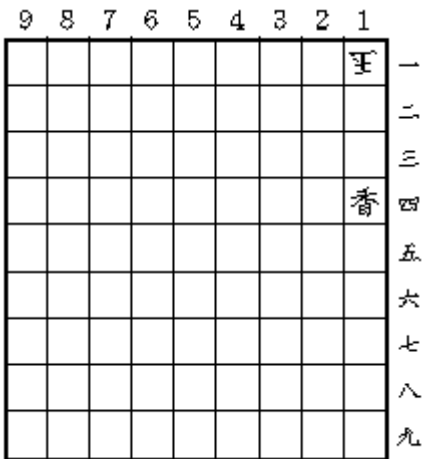
持駒 双方なし

[Circe]

1. 駒取りがあった時、取られた駒は最も近い初形位置に復元する。但し、玉は例外
2. 5 筋で取った場合、取った側が再生する位置を決める
3. 成駒は生駒として復元する

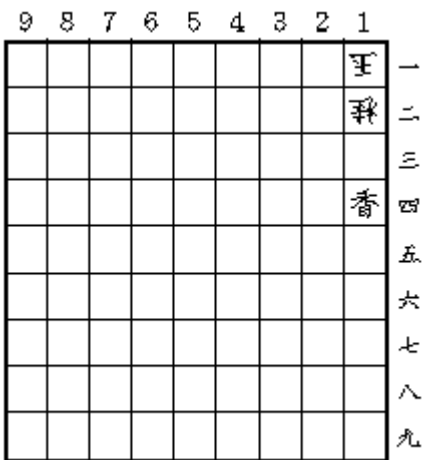
表記: ○○←動かした駒/●●←復元した駒

- ・ 最初に中心となるルールであり上記二つを説明します。



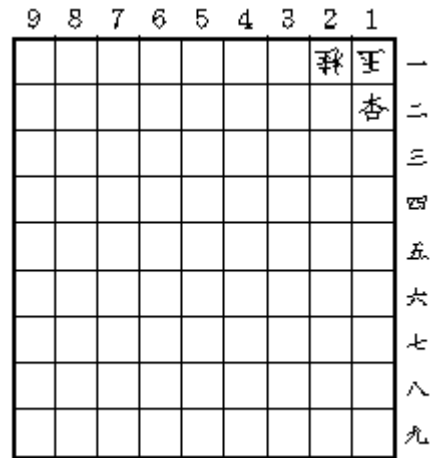
11 玉に対して 14 香と王手した上記の図から説明を進めていきます。
 まずはこれに対して 12 桂合とした場合を見て行きます。(図 1)

図 1 12 桂まで



通常のルールであれば此处から詰まないのですがキルケでは此处から 1 手で詰んでしまいます。それが図 2 の局面です。

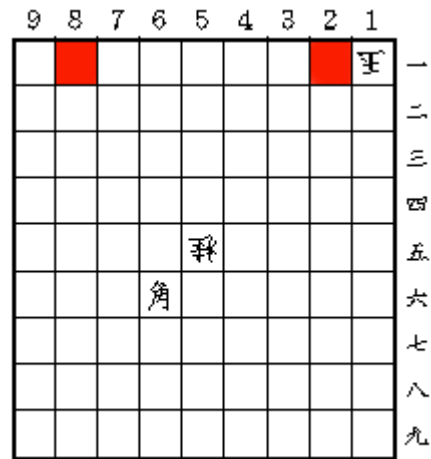
図 2 同香成/21 桂



同香成と取ると、取られた桂は最も近い初形位置である 21 に復活します。81 にも初形位置はあるのですが距離が 21 < 81 なので 21 に復活します。この局面、同玉と取ると香は先の桂と同様に最も近い初形位置である 19 に生の香として復活するので同玉・同香と取られてしまうのでこれで詰みという事になります。3 は PWC とは違うので注意して下さい。

同様に、12 合が飛・角・金・銀であれば 82・22・41・31 に復活します。

最初に図に戻って 12 歩とした手に対して同香成と取った場合は最も近い初形位置というのは 13 になります。13 は他の 23~93 よりも近いです。歩は、取られた筋と同じ筋に復活する事になります。次に 66 角の王手に対して 55 桂と受けた局面になります。



同角と取った場合、最も近い初形位置は赤く塗り潰した 21・81 の 2ヶ所存在する事になります。この場合は**取った側**が都合の良い方に復元させます

4. 復活位置が塞がっている場合・2 歩・行き所の駒になる場合は取った方の持駒となる
 最初の図に戻って 13 桂・同香生/21 桂・12 桂と

なった図 3 を見てみるとします。

図 3 12 桂まで

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							桂	王	一
								桂	二
								香	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

これに対して、同香成と取ると最も近い初形位置である 21 は塞がっています。よって、この場合は先手の持駒になります。復活するのは最も近い初形位置のみになるので 81 には復活しません。注意して下さい。

但し、5 筋で、金・銀・桂・香を取る場合、最も近い初形位置が 2ヶ所あるので片方が塞がっている場合は他方に強制的に復活します。

歩の場合は、取られた筋の初形位置が塞がっているか、歩がある筋で「と金」を取った場合に持駒と出来ます。行き所のない駒によって持駒になる可能性は普通に盤・駒を使用する場合は出現しません。通常の Circe に関しては私自身が最近 WFP にて、多く作品を投稿しています。並べて頂ければ理解が深まるかもしれません。

例題 1 Circe 協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		王							一
香									二
		馬							三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

例題 2 Circe 協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				桂					一
		王							二
									三
				香					四
									五
		馬							六
									七
									八
									九

持駒 なし

[PWC]

1. 取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。但し、2 での例外を除く
2. 二歩及び行き所の無い駒の禁に触れる場合は、復元せずに取った方の持駒になる
3. 成駒は成ったままで復元する
4. 成れる位置に復元した場合でも、成不成の選択は行えない

表記: ○○ ← 動かした駒 / ●● ← 復元した駒
 まずは 1.3 の説明の為に下図を見て下さい。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
		桂							七
		王							八
			馬						九

先手が 88 馬とした局面が図 1 になります。

図 1 88 馬まで

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
香									八
王	馬								九

これに対して先手が同玉と取ったとします。すると、玉が元居た位置である 98 に先手の馬として復元します。(図 2)

図 2 同玉/98 馬 まで

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
香									八
馬	王								九

結局、同玉と取っても 98 に馬が復元するので 88 馬迄の詰みだった事になります。此処で注意すべき点は**取られた成駒は成駒として復元する**点です。これが先の Circe とは大きく異なる点です。駒を取られたのに成駒として復元する事に違和感を持つ方が居るかもしれませんが取る度に生駒に戻るのでは色々限定がしにくくなるので、という事で御理解を頂ければと思います。
b次に 2.4 を説明する為に最初の図で 97 馬と取った図 3 を考えてみます。

図 3 97 馬/79 桂??

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
馬									八
王									九

この図で 79 桂は所謂行き所のない駒となっています。なので、このような場合は 79 桂ではなく、先手の持駒となります。条件 4 は 97 馬/79 桂成として行き所のない駒を回避する事を避ける事によって歩だけでなく、桂・香の増減を可能にする仕組みになっています。桂であれば 8・9 段目への復活・歩及び香であれば 9 段目へ復活させる事によって持駒とする事が出来ます。最後に 2 歩による増減の例をあげておきます。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
								角	七
							香	香	八
							王		九

28 角と取ると、28 角/17 歩となりますが 18 歩がある為に 17 歩の復活は 2 歩になります。よって、この場合も 17 歩は先手の持駒になります。条件 4 によって 28 角/17 歩成とは出来ない仕組みになっており増減する事を確認下さい。

PWC 協力詰は私自身が作り慣れていない事もあり例題が陳腐です。こちらは過去の PWC 作品展を参考にして頂ければと思います。

例題 1 PWC 協力詰 11 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							王		七
									八
									九

持駒 香

PWC1

29 香 28 歩同香 16 玉 17 歩 15 玉 16 歩 14 玉
15 歩 13 玉 23 香成迄 11 手
持駒が増減する作品の 1 例

PWC2

49 角 38 香同角 26 玉 29 香 28 香同香 15 玉 16
香 迄 9 手
持駒が増減する作品の 1 例その 2。

例題 2 PWC 協力詰 9 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							歩		六
							王		七
									八
									九

持駒 角

通常 Circe の方は作っている人間が少ないので PWC 程作例がありません。また、PWC の方も一時期大量に創作されましたが最近は何れも見なくなってきました。何れのルールもまだまだ新しい事が出来る可能性があると思いますので、今回のルール説明及び作品展で新しい作者が出てくれると幸いです。最後に例題の作意を載せておきます。

Circe1

53 馬 62 飛同馬/82 飛 81 玉 91 香成迄 5 手
飛合を出して 82 を塞ぐ事で 91 香成が詰みになるという仕組み。

Circe2

63 香成 61 玉 43 馬 52 銀同馬/71 銀迄 5 手
自殺する為に銀を 71 に復活させます。31 にも復活できますがそれだと 71 玉と逃げられてしまいます。

推理将棋第70回出題 担当：DD++

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第70回出題です。はじめての方は
どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。
解答、感想はメールで2013年9月20日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールのお題名は「推理将棋第70回解答」でお願いします。

推理将棋第70回出題 担当 DD++

今回は9月（には少しフライングですが）恒例の94形式問題特集です。会話文もなく条件も趣向的な条件にすることが多いため、頭のかで解くには適した簡素な形式です。

初級1つめは初登場のしまぎろうさんから、金の手条件4つで筋も明かされているので、94問題らしく手を出しやすい問題になっています。初級その2はNAOさんから、連続王手が条件なので協力詰に近い感覚があるかもしれませんね。最後に中級を渡辺さんから、つかみどころがなく9手としては難しいほうですが、それでも9手ですので中級としました。今月は上級はありません。

■練習問題

「さっきの将棋、▲56歩△54歩▲76歩△42玉▲33角不成△53玉まで見てたけどどうなった？」

「9手で詰んだよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

70-1 初級 しまぎろうさん作 金遣い 9手

後手の金の手はそれぞれ左右どちらの金？

70-2 初級 NAOさん作 トドメは空成 9手

連続王手をしながらすべきことは？

70-3 中級 渡辺秀行さん作 4段目の角は何処？ 9手

もちろん条件の全てが詰みに関わる手とは限りません。

■締め切り前ヒント (9月13日コメント欄に掲載 DD++)

締め切り前ヒントです。

初級1：全ての鍵は2手目の玉早逃げ。さて52と62どちらなら途中で余計な王手がかからない？

初級2：最後に成るのは角。53角成では空成になりませんので51ですが、邪魔な金をどう処分するか。

中級：角が派手に動き回りますが、実は詰みの主役は角ではなく飛車（龍）。

70-1 初級 しまぎろうさん作 金遣い 9手

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 4手目は4筋に金
- ・ 6手目は5筋に金
- ・ 7手目は6筋に金打ち
- ・ 8手目は6筋に金

70-2 初級 NAOさん作 トドメは空成 9手

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 3手目は王手
- ・ 5手目は王手
- ・ 7手目は王手
- ・ 9手目は空成

70-3 中級 渡辺秀行さん作
4段目の角は何処? 9手

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 6手目は6段目
- ・ 7手目は5段目
- ・ 8手目は4段目に角
- ・ 9手目は3段目

■ 練習問題解答

問題以下、▲66角成△64玉▲75馬まで。

9手から登場する特徴的な詰みに中段玉があります。歩頭に馬のパターンと角2枚を使うパターンがあり、玉位置は4ヶ所。この例題は64で詰みですが、さて他の3箇所はどこで、それぞれどんな手順で詰むのでしょうか？

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	
二		飛						角		
三	歩	歩	歩	歩		歩		歩	歩	
四				王	歩					
五			馬							
六			歩		歩					
七	歩	歩		歩		歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩

推理将棋第7 1回出題 担当：DD++

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第7 1回出題です。はじめての方は
どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門

(http://toybox.tea-nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をごらんください。
解答、感想はメールで2013年10月20日までにTETSUまで

(omochabako@nifty.com) メールのお題名は「推理将棋第7 1回解答」をお願いします。

推理将棋第7 1回出題 担当 DD++

本コーナーはおもちゃ箱の他に Web Fairy Paradise 誌にも掲載されているのですが、こちらで毎号掲載されている WFP フェアリー作品展にも最近推理将棋がよく登場しています。ここ4ヶ月の出題は「19手」「79手」「81手」「55手」「56手」「最短手数探索(数百手?)」と決して簡単な問題ではありませんが、鑑賞するだけでも面白いと思いますのでぜひ。逆にmixiは最近静かで、時代にあわせて活動場所を動かす必要もあるのかなあとと思う今日このごろです。

さて、今月の初級は山葵茶漬けさんから、初級らしく最初から手順のかなりの部分が見える問題です。だからといって残りの部分も一瞬とは限りませんが。中級は担当から。最近手数+1条件問題がないなあ、と思ったので昔作ったものを引っ張りだしてきました。上級はチャンプさんから。一見とっつきやすそうにも見える問題ですが、皆様の解図日数や如何に。

■練習問題

「さっきの将棋、▲76歩△34歩▲22角成△42玉▲31馬△33玉まで見てたけどどうなった？」
「9手で詰んだけど五段目の手はなかったよ、って言えば残りの3手は分かるよね」

さて、残りの3手はどんな手だったでしょうか。

■本出題

7 1-1 初級 山葵茶漬けさん作 マイペースな将棋指し 9手

先手が成る駒はすぐにわかりますね。

7 1-2 中級 DD++作 成大駒のカニ歩き 11手

11手で龍を2回も動かす方法はかなり限られます。

7 1-3 上級 チャンプさん作 少年の将棋は？(その10) 12手

先入観にとらわれると鍵となる1手はいつまでも見えません。

7 1-1 初級 山葵茶漬けさん作 マイペースな将棋指し 9手

「あれ、あそこの対局もう終わり？」
「なんでも、先手が2手続けて空成して9手で詰んだらしい」
「お、後手が2手続けて同じ駒を動かしたのが敗因とか聞こえるな」
「お互い2手続けてって、どっちもマイペースだねえ」
「しかし、一体どんな将棋だったんだろう」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・9手で詰み
- ・先手は2手続けて空成の手を指した
- ・後手は2手続けて同じ駒を動かした

7 1-2 中級 DD++作 成大駒のカニ歩き 11手

「よし、この将棋2回目の龍の手で横移動だ」
「では、この将棋2回目の馬の手も横移動だ」
「あれ、11手で詰んじゃった？」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 11 手で詰んだ
- ・ 龍も馬も 2 回目の着手で横に動いた

りこの場合、後手が 24 地点を塞ぎ、先手が飛の利きを遮ったってよいわけです。このような手は推理将棋でも盲点になりやすく、問題の難易度が一気に跳ね上がることとなりますね。

7 1-3 上級 チャンプさん作

少年の将棋は？ (その 10) 12 手

少年A 「君の将棋早く終わったみたいだけど、どんな将棋だったのか教えてよ。」

少年B 「どんなと言われても、12 手で詰ませて勝っただけだよ。」

少年A 「それだけでは何も分からないよ。」

少年B 「仕方がないな一、成る手は無かったけど 1 筋へ 3 種の駒の不成があったよ。」

少年A 「それだけ？せめて初手ぐらい教えてよ。」

少年B 「初手は 7 筋の手だったね。」

さて、どんな将棋だったのだろうか。

(条件)

- ・ 12 手で詰み
- ・ 初手は 7 筋への着手
- ・ 成る手は無く 1 筋へ 3 種の駒の不成があった

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	龍	金		金	馬	科	皇	
二		飛					銀	角		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	王		歩	
四							歩	歩		
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 なし

■ 練習問題解答

問題以下、▲32 銀△24 歩▲22 角まで。

五段目に着手してよければ、25 銀、72 銀、22 角までなどという順はすぐに見えるでしょう。今回の問題の主眼はそれぞれの指し手を条件を満たすようにやりくりする方法。それぞれの手の意味を分析してみましよう。25 銀はただ 24 を塞ぐだけの手、72 銀は飛を 22 に利かせないためだけの手。22 角は替えが利かないとしても、他の 2 手は同じ役割を果たせる手ならなんでもよいのです。

しかしそうは言っても銀は結局五段目に打つしかないのでは……？ いいえ、実はそうでもありません。詰将棋にはない推理将棋特有の手法として「先手がやりたいことを後手がかわりにやってもよい」というのがあります。つま

【懸賞問題】王手が9割

一乗谷酔象

実戦初形から指し始めて全着手中の王手の割合が9割に達する手順を求める最短手数探索型の将棋パズルです。WFP61号に出題し、(9月19日現在)既に2名の方から解答いただいています。

今回、途中図付きで追加出題します。途中図では王手量産の仕組みが明示されてますので、最短手数に挑戦ください。先後どちらが詰ませても構いませんが、王手率がちょうど90%に達するのは偶数手数なので最短解では先手玉が詰まされると予想されます。

3題とも解答は実戦初形からの手順が必要になります。第2問、第3問の両題とも図面は途中図ですのでご注意ください。

手数にかかわらず、解答をお待ちしております。1題のみの解答も歓迎します。

【懸賞】下記に該当される方に賞品(酔象駒)を贈ります。

(再掲)第1問を9/25迄に解答いただき、王手9割以上達成された方全員

(追加)10/15迄に解答いただき、第1問~第3問の各問題で最短手数を達成された方

・ルール(案)

王手九割詰：実戦初形から指し始め、同一局面なしで王手率が90%以上に達して詰みに至る手順を求める。非限定は許容する。

王手率：全着手中の王手の割合

■第1問(再掲)

「推理棋神戦の決勝戦、見たかい？凄いい熱戦だったね」

「王手王手の応酬がすさまじい将棋だった。なにしろ、着手の9割は王手だったからね」

条件

- 1) 実戦初形から指し始めて、王手率が90%以上に達して詰んだ。
- 2) 同一局面なし

はたして解はあるのだろうか？

■第2問

王手九割詰(成禁)

【途中図、手番は先手】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	科						科	
	歩	歩		歩		歩	歩	
			飛		角	王		
			歩		王	馬		龍
	歩	歩		歩	歩	歩		歩
	桂							

先手持駒 金3銀3香3歩3

後手持駒 金銀桂香歩2

条件

- 1) 実戦初形から指し始め、途中図を經由して、王手率が90%以上に達して詰んだ。
- 2) 同一局面なし
- 3) 成る手なし

■第3問

王手九割詰

【途中図、手番は先手】

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								皇
					皇			
	歩	歩	歩	歩	歩			歩
					王		角	龍
			龍	馬		王		
	歩	歩		歩	歩		歩	歩
						香		
	香							

先手持駒 歩3

後手持駒 金4銀4桂4歩3

条件

- 1) 実戦初形から指し始め、途中図を經由して、王手率が90%以上に達して詰んだ。
- 2) 同一局面なし

解答〆切り：10月15日

解答は下記まで

ichi.suizo@gmail.com

アットマークは半角にしてください。今回、都合により新しいアドレスに変更しております。旧アドレスは10月以降使えませんのでご注意ください。

第54回WFP作品展結果 担当:神無七郎

第54回の作品展は全11題。解答者は7名でした。相変わらず出題数に解答者数が追いつかない状況ですが、一時期の解答者不足の状況よりは改善されていますね。まずは解答成績のまとめから。

【第54回WFP作品展成績】(敬称略)

○:正解 △:準正解 -:無解 ×:誤解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
たくぼん	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11
橘圭伍	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	9
一乗谷酔象	△	-	-	○	○	○	○	-	○	×	○	8
占魚亭	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	4
DD++	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	△	3
変寝夢	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
幻想咲花	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

残念ながら54-2の正解者が作者のみ(実質正解者ゼロ)となっていました。もう一つ担当が正解者ゼロを心配していた54-11は作者以外に2名の解答を獲得(うち一つは準正解)しました。上記の成績では54-11の正解を2点、準正解を1点で計上しています。

■ 54-1 変寝夢氏作(正解6名)

PWC天竺協力自玉詰6手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
									王	三
										四
			王							五
										六
										七
										八
										九

持駒 G銀

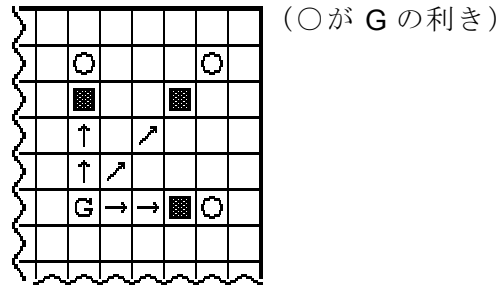
【ルール】

- 協力自玉詰
先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。
- 天竺
玉(王)の利きが王手をした駒の利きになる。
- PWC
取られた駒は取った駒が元あった場所に復

元する。(駒位置の交換となる)

• グラスホッパー (G)

フェアリーチェスの駒。クイーンの線上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。



【解答】

24 銀 14 玉 94G 84 角 74G 64 金
まで 6 手

(詰上り)

										9
										8
										7
										6
										5
										4
										3
										2
										1
										一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

【作者のコメント】

グラスホッパーの最遠打とその一枚で詰め駒を発生させている

【解説】

グラスホッパーは1枚駒を飛び越し、2枚は飛び越せません。従って「合駒」を出すことができます。本局はこの性質を使って合駒を2枚発生させて自玉を詰める作品です。

自玉詰系のルールでグラスホッパーを使うメリットは合駒を取れないことです。普通の走り駒(飛や角など)で合駒を出したら、通常は玉や王手駒を動かして利きを逸らすのですが、合駒した瞬間に詰めたい場合は「銀杏返し」のような凝ったテクニックを使わなければいけま

せん。ところがグラスホッパーに対する合駒の場合、合駒はジャンプ台になるので、これをグラスホッパーが取る心配はないのです。

PWCと天竺の性質は最終手に現れます。PWCの性質により 64 金を同玉とは取れません（取った金が 65 に復活し王手を掛けている）。また、天竺の性質により玉は金の性能になっているため、76 や 56 に逃げられません。次局も同様ですが、利きのない駒での詰上りはフェアリーらしいですね。

本局は様々なルールの中合作品なので、ルール名だけで避けた方も多かったと思いますが、詰上りをよく見ると「頭金」。フェアリーといえど基本は大切なのです。

【短評】

幻想咲花さん

PWC も天竺もグラスホッパーも初めて解きましたが、全て初めてだからこそ手順の新鮮さと解けた嬉しさがある。そして何より絶妙の合駒がポンポンと出るこの感覚、ただただ楽しいですね。

☆ 幻想咲花さんは初解答。本局で使われた各ルールは、単体で見ればそれほど難しくはないですが、こうして複数組み合わせたものを初挑戦で解いてしまうというのは凄いですね。普通詰将棋の世界だけでなく、フェアリーでの活躍も期待したいと思います。

橘圭伍さん

最初、対面で解こうとする謎をやっていて苦戦しました。G に対する合駒で詰まそうとすると頭金まで位しか展開がないので易しい部類でしょう。

たくぼんさん

複合ルールは暗算では難しい。並べてやっとなら解けました。

DD++さん

香が一番詰ませやすいのかなと思ったら、金だと尻だけ押さえて紐なし頭金で詰むのですね。

一乗谷酔象さん

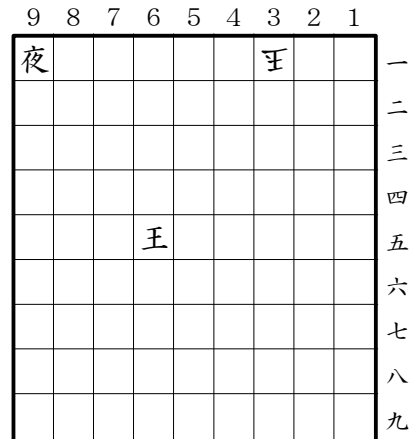
4 手目 G 合ができるんでしょうか。

☆ 一乗谷酔象さんは角金ではなく G 香の連続合での解答。そういえば出題時に表示された以外のフェアリー駒がないこと（つまり G 合ができないこと）を明確に説明していませんでした。担当の説明不足が原因なので、解答の点数には 1 点計上しておきました。

☆ 本作品展のフェアリー駒を使った作品では特に指定のない場合は、標準駒数と出題の局面で指定されているフェアリー駒のみが使用可能です。（これは詰パラのフェアリーランド等でも同じです。）今後説明漏れのないよう注意したいと思いますが、万一説明が抜けていた場合でも上記の解釈で解図を行ってくださるようお願いいたします。

■ 54-2 変寝夢氏作（実質正解者なし）

PWC天竺協力自玉詰 10手

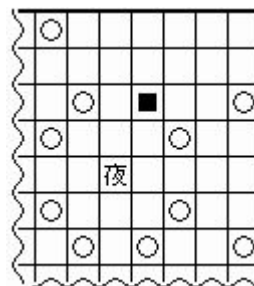


持駒 なし

【ルール】

• ナイトライダー（夜）

フェアリーチェスのナイトライダー（夜）。ナイトの利きの方向に連続飛びができる。



（○がナイトライダーの利き。■に駒があるとそこから先には利かない。）

【解答】

67 夜 15 玉 91 夜 72 角 同夜/91 角 36 玉
93 夜 74 角 同夜/93 角 55 金 まで 10 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬									一
									二
馬									三
		夜							四
			王	香					五
						王			六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

9 1 と 9 3 の角が合→PWC で移動しているのが面白いかと。

【解説】

作者以外の正解者がゼロという難解作。まずは詰上りを見てください。74 のナイトライダーの王手に対し、55 金と合駒した局面です。この55 金は取れません。ナイトライダーで取ると金が74 に復活して王手になりますし、王で取ると金が65 に復活して王手になります。これはPWCの効果です。また、天竺の効果で王の利きは金になっているので、76 には逃げられません。そして64 と75 への逃走は2枚の角が防いでいます。

この詰上りが想定しにくい最大の要因はこの角2枚です。2箇所を塞ぐのに2枚も使うのは効率が悪いですし、角が合駒した箇所とは筋違いの位置に移動することも、その想定を困難にしています。更に付け加えるなら、例題で角合の筋の作品を見せたのが逆効果だったかもしれません。角合で詰める筋を追い続ける限り、金合の筋には辿り着けないからです。

チェスプロブレムではナイトライダーはガラスホッパーと並んで人気の高いフェアリー駒だそうです。日本での人気はどちらもイマイチです。超短編が主体のチェスプロブレムと、中長編作品の多い日本の詰将棋では、駒に要求される機能が異なるのがその要因だと筆者は思っているのですが、その辺の考察は別の機会に譲りましょう。果たしてこれらの駒が日本で市民権を得る日は来るのでしょうか？

【短評】

橘圭伍さん (※無解)

詰上り勝負なのでしょうがどうにも見えないです。

たくぼんさん (※無解)

解けません。56 金発生して・・・11 玉 74 夜 32 角と読んだのですが・・・。

☆ 例題の角合が誤った筋に誘導してしまったとは……例題の出し方も難しいですね。

■ 54-3 橘圭伍氏作「Arcturus」(正解4名)

キルケ協力自玉詰 8手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	馬								一
	王								二
			飛						三
									四
									五
									六
			香						七
									八
王									九

持駒 飛

【ルール】

•キルケ

駒取りがあったとき取られた駒が、最も近い将棋での指し始め位置に戻される。

【解答】

89 飛 88 香 73 飛成 92 玉 72 龍 82 香打 81 龍/91 香 同玉/28 飛 まで 8手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
馬	王								一
	馬								二
									三
									四
									五
									六
			香						七
	馬						飛		八
王	飛								九

持駒 なし

【作者のコメント（シリーズ全体）】

第31回WFP作品展 31-1 たくぼん氏作キルケ協力自玉詰 14 手から派生したキルケにおける合駒作品になります。題名は星の名前に統一して一応ヒントという事になってます。

【作者のコメント（本局）】

2008 年詰パラ FL③tomo 氏作協力自玉詰 12 手が元ネタとなっている作品。解説中の手順をアレンジしています。

「香」の単体合ですが、最終での魔女返しによる逃れを防止するための限定合になっています。位置に関しては自身でも既に使った復活する飛車の効きを遮る為となっています。

魔女返しをさせない為の限定合は恐らく初めてかと思いますが面白いかは別問題です。出来るから作った感じもする作品になっています。

〔参考図〕 橘圭伍氏作

キルケ協力自玉詰 8手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

王	皇									一
										二
										三
	龍									四
										五
										六
		糸								七
										八
王										九

持駒 飛

98 飛 95 桂 81 龍 同玉/28 飛 89 香 88 香
同飛左/91 香 87 桂生 まで 8 手
(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

皇	王									一
										二
										三
										四
										五
										六
		桂	糸							七
		飛						飛		八
王	香									九

持駒 なし

上記作品を元に 2008 年詰パラ FL③tomo 氏

作協力自玉詰 12 手をほぼそのままの再現した物になります。同じ 88 香でもこういう作りだと全く意味付けになります。新作としては価値がないと思うので参考図としておきます。

【解説】

冒頭の2手が本局の重要な伏線。なにげないやりとりに思えますが、ここには3つの謎があります。

1. 初手はなぜ 89 飛なのか。
2. 2 手目なぜ香合なのか。
3. なぜ 8 段目なのか。

まず 1. と 3. をまとめて説明しましょう。

詰上りで飛合ができないよう飛を手放すのは必然ですが、ここでは仮に「12 飛 22 歩」とします。そして作意と同様に手順を進めると…

12 飛 22 歩 73 飛成 92 玉 72 龍 82 香打
81 龍/91 香 同玉/28 飛 まで 8 手??

これは詰んでいません。28 に復活した飛が 98 に回って合駒できます。だから 89 飛と打ち 88 に合駒させて、飛の横利きを止めるのです。

次に 2. の「なぜ香合なのか」を説明します。88 の合駒候補は歩香銀金角の 5 つ。このうち銀金角は逆王手で手の継続ができません。残りは歩の可能性だけですが…

89 飛 88 歩 73 飛成 92 玉 72 龍 82 香打
81 龍/91 香 同玉/28 飛 まで 8 手??

これも詰んでいません。最終手に「88 玉/83 歩」として逃れています。せっかく発生させた 82 香の利きを、復活した歩が止めてしまうのです。これを防ぐのが香合の理由です。

味方の駒ではなく相手の駒を合駒代わりに使うキルケの手筋を「魔女返し」と呼びますが、本局は「魔女返し」を利用して合駒を限定する構想作です。作者のコメントによると、この発想の元となったのは以下の作品です。

[参考図]

tomo 氏作(詰将棋パラダイス 2008年11月)

キルケばか自殺詰 12手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				龍	歩	王	王	一
								二
								三
								四
								五
								六
								七
						飛		八
							王	九

持駒 なし

18 飛 17 桂 同飛 15 桂 23 桂 12 玉
11 桂成 22 玉 21 圭/11 香 同玉/29 桂
27 飛 同桂生/28 飛 まで 12 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				龍	歩	王	歩	一
								二
								三
								四
								五
								六
						歩		七
						飛		八
						桂	王	九

持駒 なし

作意は飛の小回転や盤上にない駒での両王手があって面白いのですが、この作品を更に奥深くしているのが作意の裏にある、隠れた紛れ。解説では以下のように述べられています。

18 飛、13 香、同飛生、22 玉、29 香、28 歩、33 飛成、12 玉、32 龍、22 香打、21 龍/11 香、同玉迄、という一見作意のような手順があるのですが、これには **28 王!**/23 歩とするのがキルケならでの妙手で詰みません。

本局はこの逃れを応用し、これを防止する手順を作意に据えて具現化したものです。作意だけでなく、こうした紛れ順にも新しい構想の種が埋まっているのですね。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

当初2手目は角合一点読みでさらに同飛/22角も必須とっていました。

その後さすが78歩成まではないなということで91香復活までは読み、更に28飛復活で98に利くので何かするんだなとまでは分かったのですが・・・

81の香を取ることは一切考えられませんでした。文の長さイコール残念な気持ちです。キルケは苦手だなー。

橘圭伍さん

作意を忘れて解こうとしたら苦戦しました。狙いを思い出せなかったらもっと苦戦したかもしれません。

たくぼんさん

2手目歩合だと失敗するのが最後に分かるのが絶妙。

DD++さん

なるほど88合は香限定なんですね。

シリーズでこれしか解けませんでしたけど限定合がテーマなのかな？

占魚亭さん

目標とする(取る)駒が明らかなので、詰上りが見えやすかったです。

■ 54-4 橘圭伍氏作「Procyon」(正解4名)

キルケ協力自玉詰 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
	銀			歩	王				六
									七
	王								八
									九

持駒 香

【解答】

59 香 58 飛 同香/82 飛 57 飛 同香 同玉/99 香
97 飛 87 香 同飛/91 香 同飛成/28 飛まで 10 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇									一
									二
									三
									四
									五
銀			歩						六
	龍			王					七
王							飛		八
香									九

持駒 なし

【作者のコメント】

「飛飛」の2連続合。1、3~7と作って2だけないので付け足した作品。とりあえず、打った香も再利用できたので及第点でしょうか。新味自体は皆無です。

【解説】

キルケで自玉が98に居る場合、玉の横に88龍を発生させるのが定番の詰型です。しかし、

59香 58飛 同香/82飛 57飛 同香 同玉/99香
87飛 58玉 88飛 同飛成/28飛

とすると、28に復活した飛が受方玉に王手を掛けてしまいます。

ただ、上の手順で香を99に据える手が出てきましたね。これを利用すれば、87龍型の詰上りができそうです。でも、87には銀が利いています。「87飛 同飛成」の詰上りでは96銀が邪魔になるのです。とはいえ「87銀 同飛成」の詰上りを目指すと、玉を近づける必要があります。香を取らせることができなくなります。

このジレンマを脱する発想の転換が7手目に挿入された「97飛 87香」の2手。87香を取ると91香として復活するので、銀を縛ることができるのです。

合駒を手に入れるため連続合をするのはキルケの常道で、その意味では本局の飛連続合は普通ですが、冒頭に解説したキルケらしい紛れや、最終盤の香の復活によるピンの生成が良いアクセントになっています。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

飛の連続合はすぐ分かったのですが(実際一度は解答を書いた)、やはり復活する飛の横利きが強くダメでした。7段目かー。

橋圭伍さん

改めて見るとかなり完成品に近い作品かもしれませぬ。これ以上の10手はなかなか作れないかも。

たくぼんさん

88ではなく87が良かったんですね。

占魚亭さん

前半の連続飛合が全て。

■ 54-5 橋圭伍氏作「Alnitak」(正解4名)

キルケ協力自玉詰 10手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				歩					三
									四
	王								五
									六
	王								七
									八
						飛			九

持駒 なし

【解答】

48飛 58角 同飛/22角 68角 同飛 78香
54角 65金 78飛/91香 88飛 まで 10手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇									一
							角		二
				歩					三
				角					四
				王					五
	王								六
									七
王	龍	飛							八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

「角角香」の 3 連続合 + 金合 + 飛合の組み合わせの作品。

通常キルケでは単発合を出すのは難しい事が多いですが今回は取るのを一度止める事で実現しています。

2 筋または 8 筋に玉をおけばほぼ香合が出せるので其処に角入手の為の連続合を付けて作っています。

全応手が合駒という変わった作品になりました。今回の作品群の中では一番面白いかもしれません。

【解説】

いかにもありそうな筋の一つ挙げましょう。

48 飛 58 角 同飛/22 角 68 角 同飛 88 角成
87 角 同馬/88 角… ??

最終手は復活した角が飛の利きを止めてくれる味の良い手ですが、上部の脱出が抑えられません。これを防ごうと「54 角 65 飛」の手順を入れると、角が自由に使えなくなります。

ここで、キルケならではの一手に気付かなければいけません。上の例では 6 手目に「88 角成」と合駒しましたが、「88 飛」ならこれを取ることができないのです。もし 88 飛に「同飛」とすると飛が 82 に復活して白玉への王手となります。まるで「取禁」ルールのような感覚ですが、キルケにはこのような取禁的な筋がしばしば出現するので、覚えておいてください。(第 56 回 WFP 作品展で実際にキルケを取禁のように扱う作が出てきます。)

「88 飛」が取れないと分かれば、解図は一気に楽になります。合駒を動かす手が不要になるので、ここで捻出される 2 手を上部脱出防止に充てることができます。事前に稼いだ角で金合を発生させ、香の復活と合わせて白玉を囲う作意の発見も容易でしょう。

解図を終わって手順をよく見ると受方の全着手が合駒という珍しい手順。「取れない飛」の合駒と共に、シリーズ中でも強く印象に残る作品です。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

連続角合はすぐ見えましたが、6 手目からは全く予想が付きませんでした。

まあこの辺はもう無理です。
王の包み方は余り好きじゃないです。

橘圭伍さん

これと似た原理で 5 連続合も作れそうですね。
余りやる気はしませんが。

たくぼんさん

43 歩配置で 54 角が予想できた。
お尻からの詰上りは面白い。

占魚亭さん

ワンクッションおいて香を取るのがポイントですね。

一乗谷酔象さん

43 歩がヒントになりました。

☆ 本局の弱点は 43 歩の配置。これに言及した短評が 2 つありました。でも、問題数が多いときはこのくらいのヒントがあった方が解答者としてはありがたいと思います。

■ 54-6 橘圭伍氏作「Capella」(正解 4 名)

キルケ協力白玉詰 10 手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
										一
										二
										三
										四
										五
	王							飛		六
										七
	王									八
										九

持駒 なし

【解答】

28 飛 38 銀 同飛/31 銀 48 銀 同飛 58 飛
同飛/82 飛 68 角 87 銀 同飛成/79 銀まで 10 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						馬			一
									二
									三
									四
									五
王									六
	龍								七
王			馬	飛					八
		銀							九

持駒 なし

【作者のコメント】

一番初めに作った作品となります。なので、たくぼん氏作と同じ「飛角銀銀」の3種類4連合の作品となっています。氏作と違って銀を動かさないで作っているのが容易に作れました。

小駒合は5筋では復活の選択肢が2ヶ所となり、3枚ないと取れないという事を利用しています。先に飛を合駒すると5筋に銀合が掛かって持駒に出来ません。

【解説】

本局はキルケルールにおける大駒と小駒の違いを強く印象付ける作品です。

キルケでは大駒は復活位置が固定されています。しかし小駒はそうではありません。歩は取られたのと同じ筋に復活しますし、歩以外の小駒は取られたのが盤上の左辺か右辺かで異なる位置に復活します。更に歩以外の小駒は5筋で取られたときに復活場所の候補が2つになることがあります。本局では入手したい駒は「銀」であり、合駒の場所が5筋に掛かる前に銀を取ってしまわねばなりません。格言風に言うなら「欲しい駒は早めに合駒せよ」とでもなるでしょうか。目的の「銀」を入手した後は、飛と角を利用した割と普通の詰上りとなります。

連続合はその回数が増えるほど、合駒の種類や順序をどう限定するかが注目点になります。5筋をまたぐかどうかを順序限定の意味付けに使う作品は、このシリーズ後半にも出てくるので、注目してください。

なお、作者の言葉にある、たくぼん氏の作品を以下に紹介しておきましょう。

[参考] たくぼん (WFP33号 2011年3月)

キルケ協力自玉詰 14手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
							龍		七
									八
	王		王						九

持駒 角

14 角 25 銀 同角/31 銀 36 銀 同角 47 馬 同角/22 角 58 飛 78 銀 68 玉 69 銀 67 玉 78 銀 同飛成/79 銀 まで 14 手

この作品は取れそうで取れない 78 龍による取禁的な詰上りが印象的ですが、このシリーズはむしろその準備のための連続合に刺激を受けたものです。この作品を創ったたくぼん氏もこの作品が7連合まで発展するとは想像しなかったのではないのでしょうか。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

5筋の駒の魔女返しは色々できそう。

橋圭伍さん

これは完全にキルケ自玉初心者用ですかね。前回の自作に近い感じ。

たくぼんさん

キルケだから銀銀飛角4連合でも驚かないぞ！

☆ さすが4連合創作経験者。でも使用駒わずか3枚の4連合には驚いたでしょう？

占魚亭さん

銀合がなかなか見えず苦戦しました。

一乗谷酔象さん

銀銀飛角の限定合。普通の合駒 68 角がなかなか見えなかった。

■ 54-7 橋圭伍氏作「Mizar」（正解3名）

キルケ協力自玉詰 20手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

香									一
馬									二
									三
	王	歩		歩					四
				歩	歩	香	金		五
			銀				香		六
	銀	歩		王					七
				桂	桂		香		八
				金	銀	ス	歩		九

持駒 角

【解答】

91馬/61金 82飛 同馬 73香 同馬/91香 64香
同馬 55桂 同馬/81桂 46銀 同馬/31銀 27玉
36馬 同金/88角 21飛 22飛 28香 37玉
82角 同飛 まで 20手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

馬	王	香				香	飛		一
	歩								二
									三
	王	歩		歩					四
				歩	歩		金		五
			銀		香		香		六
	銀	歩		王					七
	角			桂	桂	香	香		八
				金	銀	ス	歩		九

持駒 なし

【作者のコメント】

「飛香香桂銀」の4種類5連合の作品です。恐らく、5連続合が最難関ではないかと思えます。最後の5回目の限定合駒を取る方向にした結果、かなりの無理作りとなっています。

飛→取る為、香→取る為と玉を縛る為、桂→玉を縛る為、銀→持駒にしない為というように合駒を出しています。

余詰等の関係で最終は銀合にしています。此処は余詰がなければ何でも構いません。

取った時に持駒にしない為の限定合という使えるのかどうか分からない意味付けで1種類

増やせる可能性があるという事に気付いた作品。5回目の合駒を取らない方向で作ればもう少し何とかなるかもしれません。

【解説】

飛は復活位置が82固定なので、2手目の飛合はほぼ必然。また自玉を囲うための91香を発生させるのと、ついでに香を入手するために香を連続で合駒させる手順も発見しやすいと思います。次に桂も左辺に復活できる最後のチャンスである5筋で発生。これで包囲網は完成です。74歩には利きが無いように見えますが、74歩は取ると73に復活するので取れません。4段目の歩は自分で自分を守っているのです。後は飛をもう一度発生させれば準備が整うのですが、その前にもう一つ考えねばならないことがあります。

それは10手目の合駒。25金を動かすため馬を46に誘導する合駒が必要です。歩は二歩。角金香は品切れ。飛は後で必要。ということで残りは銀か桂ですが、桂合だとそれが21に復活したとき飛の打ち場所を塞いでしまいます。そのため46の合駒は銀に限定されます。ここは作者のコメントにある「取った時に持駒にしない為の限定合」という意味付けにできれば良かったのですが、本局では桂合が復活時に飛打の邪魔になるせいで、可能性が示唆された段階で終わったのが少し残念です。

【短評】

橋圭伍さん

恐らく、この作品がなければ世界線は完成しなかったでしょう。5個目の合駒が当初は相手に渡さない為にしていたのですが完成品を見ると46に誘導する為になってますね。

たくぼんさん

それにしても合駒限定を上手く決めますね。7種合も夢でない？

一乗谷酔象さん

合駒5種6枚限定で、復活も5種ですか。30手ぐらい指した感じです。

☆キルケは駒の復活がある分、体感の手数は増えますね。私もキルケを手掛けた最初の頃は感覚的な手数と実際の手数が合わず、戸惑いました。

■ 54-8 橘圭伍氏作「Castor」(正解2名)

キルケ協力自玉詰 22手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
									馬	二
										三
						王				四
										五
と	歩	金								六
香										七
歩	王	歩								八
香		桂	金							九

持駒 なし

【解答】

11馬 22角 同馬 33香 同馬/11香 44香
 同馬 55桂 同馬/21桂 66飛 同馬/82飛 77飛
 同馬 89玉 88馬 同玉 22角 44金
 89香 同玉 87飛 22飛/88角 まで 22手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									桂 馬	一
									飛	二
										三
						王	桂			四
										五
と	歩	金								六
香	飛									七
歩	角	歩								八
香	王	桂	金							九

持駒 なし

【作者のコメント】

「角香香桂飛飛」の4種類6連続合の作品です。こちらは前作と違い最終で魔女返しを利用していますので構図がシンプルです。

キルケでは1種類を1回だけ取るよりも2回取る方が簡単なので単純にその差になっています。

角の復活位置に玉を置く事が出来るのでこの位置は作りやすかったりしました。

【解説】

前局とは左右逆の構図。従って2手目の合駒は飛から角に変わっています。ここから香の連

続合と5筋での桂合は前局と左右が違うだけで、同様の仕組みです。違いが出るのは馬が5筋を跨いでから。飛を入手するため66・77で飛の連続合を行います。これで6連続の達成ですが、本局はここからが見どころです。

前局と異なり、34や35へ自玉が脱出できる形なのでこれを防がねばなりません、44金を発生させようと角を打っては、「22角 同飛」ができなくなる—ように見えます。ところが、キルケならではのちょっとしたトリックを使うと、「44金合を発生させる」と「22飛と呼び寄せる」の一人二役を角1枚に行わせることができます。そのトリックは「魔女返し」。あらかじめ22角を置いておき(ここで金合発生)、間をおいてから飛の王手で角を取らせる(ここで22飛が実現)ことで、自玉を詰めるという目標を達成することができました。

相手の駒だけでなく、自分の駒も合駒のように使えるキルケならではの合駒作品でした。

【短評】

橘圭伍さん

今回の連作の中で最も美しく、最もキルケらしい作品だと思います。

これが全9題の中で最高だと思っています。

たくぼんさん

最後が華麗な詰上り。それにしても5筋のラインを上手く利用していますね。

☆ 作者以外の唯一の正解はたくぼんさん。

シリーズ中最高と作者が自負する作品だけに、正解者が出たのは幸いでした。

■ 54-9 橘圭伍氏作「Pleiades I」(正解3名)

キルケ協力自玉詰 28手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
									歩	二
									王	三
									香	四
									香	五
									王	六
									桂	七
									桂	八
									と	九

持駒 なし

【解答】

15 飛 25 銀 同飛/31 銀 35 銀 同飛 45 銀
 同飛 55 金 同飛/61 金 65 金 同飛 75 金
 同飛 85 金 同飛 同玉 95 金 75 玉
 85 金 65 玉 56 銀 同と/39 銀 55 金 同と/49 金
 54 銀 同と 64 金 同と まで 28 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			香			香			一
				香					二
		歩	王						三
香	香	香	ス						四
	金		王						五
桂	桂	香	香						六
と				歩	桂				七
								歩	八
		ス	角		金	銀			九

持駒 なし

【作者のコメント】

「銀銀銀金金金金」の 2 種類 7 連続合です。次の 44 手の後発作品となります。

実は、5, 6 連続合を角で作っていた関係で飛車の方が簡単だという事に気付くのに遅れました。

本作品はキルケ最大の特徴である 5 筋を挟んで非対称になるという事を利用してます。

通常の作品と違って、2→5 の順で駒を取るのと、5→8 の順に駒を取るのでは同じ駒を 4 連続合しても取れる枚数が違います。なので、先に金を合駒すると金 2 銀 3 となってしまう、詰まないという仕掛けです。

5 筋を挟む原理は 4 連続合でも使用してますがこれはそれを拡大した物になります。

【解説】

遂にシリーズも 7 連続合に到達。これは 1 枚の駒の王手に対して可能な連続合の一つの極限の数字であり、これ以上連続合を出したければ、複数の駒で王手をするか、1 枚の駒の王手に対しても 8 枚以上の連続合が可能なルールに変えなくてははいけません。(どんなルールなら 8 連続以上の合駒が可能か考えてください。)

本局の特徴は合駒を金銀の 2 種に絞って統一感を出していることです。順番は最初に銀、

次は金。1 筋から出発し 5 筋をまたぐ関係で最初に要求した駒は 2 枚、後に要求した駒は 3 枚まで駒台に載せることができます。収束を考えると金の方が多く欲しいので銀を先、金を後にします。

今までの作品もそうですが、5 筋をまたぐ手順にまつわるマジックはこのシリーズで強く印象付けられました。中でも本局はひととき明快なロジックで 5 筋の重要性を炙り出しています。

【短評】

橘圭伍さん

7 連合だという事が分かれば余りキルケぽくはないですが銀→金と展開しても上部は完全に封鎖出来るようにしてます。

☆ 金銀が逆順だと一段目の配置は 31 銀 61 金→41 金 71 銀になりますが、確かにこれでも上部は押さえられています。意味付けを唯一に絞るための細やかな配慮で、これがあるとないとでは作品の価値が大きく変わると思います。

たくぼんさん

17 手目 75 金と捨てたくなるのは詰キストの性でしょうか (笑)

一乗谷酔象さん

金銀 5 枚も入手できるんですね。

■ 54-10 橘圭伍氏作「Pleiades II」(正解 2 名)

キルケ協力自玉詰 44 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

	香								一
と			ス					馬	二
									三
	王								四
									五
と	銀	歩							六
	香							馬	七
香	歩	歩	桂						八
王	香	飛	馬						九

持駒 なし

【解答】

11 馬 22 銀 同馬/31 銀 33 歩 同馬 44 銀
 同馬 55 金 同馬/61 金 66 金 同馬 77 金

同馬 88 金 89 金 同玉 99 金 同金
 88 馬 同玉 77 銀 98 玉 97 と 同玉
 86 銀 96 玉 85 銀右 87 玉 76 銀 96 玉
 97 歩 同龍 85 銀直 86 玉 75 銀 87 玉
 96 銀 76 玉 85 銀 65 玉 74 銀直 64 玉
 73 銀生 同と まで 44 手

(詰上り)

	馬		馬			馬				
と										
		ス								
	王		王							
	銀									
				歩						
龍										
		歩	歩	桂						
馬		香	飛	馬						

持駒 なし

【作者のコメント】

一応、「銀歩銀金金金金」の 3 種類 7 連続合駒の作品になります。

見たままですが苦勞の産物です。

銀銀銀金金金+88 金の形との区別がどうしても出来なくて銀を 1 枚配置する事で誤魔化す事となりました。

飛角の合駒の余地を残して 7 連続合をしたかった所ですが収束の発見が出来ませんでした。出来としてはかなり宜しくないですが角でも一応作れたという事で……

99 を埋めないと箱から脱出できない仕組みにする事で合駒を消費しています。

【解説】

前局を解いた後で本局を解こうとした人は今度も金銀の 7 連続合か…と一度は考えたことでしょう。しかし、盤上には銀 2 枚が配置されており、金銀は 6 枚しかありません。すると、途中で他の駒を挟むことになりませんが、下手な合駒では取ったはずの駒に逃げられて駒不足になります。

キルケで効率よく駒を取る方法として「復活位置=原位置」となる駒種と位置を利用することが挙げられます。合駒可能な 22 から 88 に至る斜めのラインで、「復活位置=原位置」となる駒種・駒位置は 22 角・33 歩の 2 種ありますが、

角は品切れで使えません。従って 33 歩合によりが 1 枚稼ぐ順が正解となります。この 33 歩はキルケ作品の中でも出現頻度の少ない手なので、意外と盲点になるのではないのでしょうか。こうして稼いだ貴重な一步は、「97 歩 同龍」で自玉の包囲網形成に役立てます。

配置面では 98 香が巧妙です。これは取ると 99 に復活するので、玉では取れません。そのため 99 を埋めるための手順が必要になり、連続合で得た持駒を消費することができます。

作者は銀 2 枚の配置を残念がっていますが、この経験が横の 7 連続合に活かされたのは幸いでした。本局は破調の 33 歩により、かなり手ごたえのある作品に仕上がっており、シリーズ完結にふさわしい重厚さを備えた作品です。

【短評】

橘圭伍さん

完全におまけ。手数ながいだけですがこのように密室を壊す系統の作品はキルケで研究する価値があると思います。

たくぼんさん

収束がなかなか見えなかった。33 歩が上手い。

一乗谷酔象さん (※誤解)

一見して王手を続けるのが困難ですが、強引に 99 に駒を置いて解決。と思ったら、収束形がいろいろあり、まとまりませんでした。

☆ 一乗谷酔象さんは 2 手目 22 金以下 46 手解。この手順だと金を 2 枚手にするには金を 3 連続で合駒するしかなく、歩合を入れる余裕がありません(33 以外の地点で歩合しても、取った時に復活で逃げられる)。破調の 33 歩の発見がカギで、またもやたくぼんさんが作者以外で唯一人の正解者となりました。



■ 54-11 一乗谷醉象氏作（正解2名）

推理将棋『81格巡り』

「全国行脚の旅もいよいよ終盤だ。ここまでの旅路を振り返ってみよう」
 「長旅は最初が肝心。歩を進める前に自陣の整備から始めましたね。最初は歩以外の駒を10回動かし、そのとき着手した筋は左の方から右の方に移っていきました。一つの駒を3連続動かす手もありました」
 「そうだ。歩の手は慎重に指した。先手の最初の歩の手は21手目、2回目の歩の手は29手目だった。その後、異なる7つの筋の歩を左側から右側の順に続けて1路ずつ進める一連の手順もあった」
 「こんな一連の手順もありました。先手は一つの駒を3回続けて動かした直後に4回続けて一つの駒を動かし、さらにその直後、5回続けて一つの駒を動かしました」
 「この将棋、駒を取る手もなく先手の不成は1回だけだった。そして、君はこれまでずっと私の指し手を真似して、あとをついてきてくれた。感謝するよ。でも、真似将棋とはこれでお別れだ。次は先手番の79手目。中央の手を指すから後手の最終着手は自力で最善手を発見してごらん」
 「それでは、80手目はここに・・・」
 「そうくるか。じゃあ81手目は81地点の手を指して詰んでるね。しかも81全格巡りを達成だ」

81格巡りとはどのような将棋でしょうか？
 会話を元に手順を推理してください。

条件

- 1) 81手で81カ所に着手して81地点の手で詰んだ
- 2) 78手目まではマネ将棋
- ※3) 以下は先手側の着手条件
- 3) 駒を取る手なし
- 4) 不成は1回だけ
- 5) 初手から19手目迄は一つの駒を3回続けて動かす手を含め、歩以外の駒を（自分から見て）左の筋の方から右の筋の方に着手（続けて同じ筋は可）
- 6) 歩の着手の1回目は21手目、2回目が29手目。それ以降に、左の方から右の方へ異なる7つの筋に連続して歩を着手する一

連の手順があった

- 7) 一つの駒を3回続けて動かし、その直後4回続けて一つの駒を動かした。さらにその直後、5回続けて一つの駒を動かした。

※本問では全条件を満たさなくても、1)~4)の条件を満たせば準正解として扱います

【ルール】

• 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する

【解答】

98香 12香 78金 32金 68飛 42飛
 69飛 41飛 58金 52金 48銀 62銀
 49玉 61玉 39玉 71玉 38玉 72玉
 18香 92香 96歩 14歩 97角 13角
 88銀 22銀 99銀 11銀 56歩 54歩
 31角成 79角成 75馬 35馬 95歩 15歩
 86歩 24歩 76歩 34歩 66歩 44歩
 46歩 64歩 26歩 84歩 16歩 94歩
 47玉 63玉 77桂 33桂 85桂 25桂
 93桂生 17桂生 65馬 45馬 83馬 27馬
 82馬 28馬 91馬 19馬 59飛 51飛
 89飛 21飛 87飛 23飛 67飛 43飛
 57飛 53飛 36歩 74歩 37桂 73桂
 55歩 29桂成 81馬 まで 81手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		馬								將
皇				將	王	王				皇
桂			王	王	王					
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		
					歩					歩
					飛	玉	桂			
香		金		金	銀					香
銀								手		皇

持駒なし

【作者のコメント】

『XY手でXYカ所着手してXY地点の手で詰み』条件の長手数問題の最長です。

XY=81は全格巡りになりますが駒取りなしで条件付けました。

【解説】

前回の『泣く金、マネーゲーム』は「79」にこだわった作品で、盤上に2箇所着手がない地点がありました。本局も前回と同様マネ将棋を基本としていますが、今度は盤上すべてのマスに1回ずつ着手がある作品です。

まずは細かい条件は措いておき、1)から3)だけの条件を頭に入れて、何の駒で詰ますか考えましょう。例えば飛で詰めようとすると、容易に飛同士が衝突し、同じ箇所を通らず、駒も取らずに敵陣に侵入するのは困難であることが分かります。角ならば利きが斜めなので、少しだけ互いの利きを逸らせば、互いに敵陣に侵入することができます。

更に詰みの直前の手を考えます。80手目にマネ将棋の条件が解除されますが、それまではマネ将棋が続いているので、81手目が81への着手であることから、80手目後手は29への着手に確定されます。ただし、後手の着手が王手だと先手は次に王手ができないので、29に着手した駒の種類と81に着手した駒の種類は異なります。つまり敵陣に侵入させる駒は角だけではありません。角に次いで侵入させやすい駒と言えば桂なので、角と桂の2枚を敵陣に侵入させることとなります。

ただ、桂と角の2枚を侵入させたことにより、桂と角の連携で詰ませる…と思いついてしまうと、これが大きな罠。2枚の駒を81に利かせるのは確かなのですが、詰めるのに使うのは実は1枚だけなのです。条件3)「駒を取る手なし」により持駒がないので、合駒なしの詰上りがあることを忘れてはいけません。

本局の完全な正解者はたくぼん氏だけなのですが、氏も最初は「71 圭+63 馬、92 玉」を考えたそうです。玉の周りを自駒で囲って、1枚の敵駒で詰まされるのは、協力自玉詰で時々見られるパターンですが、推理将棋でも合駒がない詰上りは盲点になり易いようです。

【短評】

橘圭伍さん (※無解)

色々やっていたら完全に解く時間が紛失しました。次回こそは……

たくぼんさん

駒取りなしなのでまだ考えやすかった。

最初71 圭+63 馬、92 玉型をさんざん考えましたがどうしても無理。

何とか作意の型に気付いて解決しました。

条件がきれいに決まりすぎるので解後感最高です。

DD++さん

条件7以外満たす順は数分でできたものの、78 銀とあがって59へは69の金を動かし99を最初に角で拾うものだと思っていたので桂3連続馬4連続のあと飛が4連続にしかならず大苦戦。

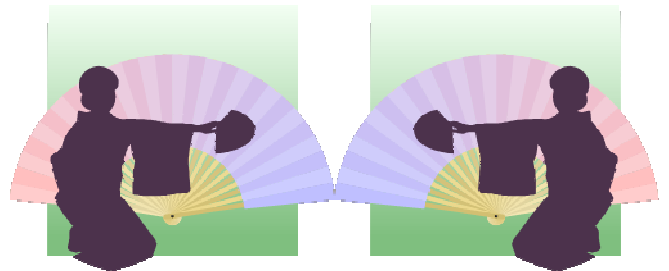
99 角 88 角を指すとどうやっても序の駒組みで11ヶ所指せる→だとすれば21手目に歩を指定するのは不自然→99 角 88 角は間違い？→88 角のままだと序が9ヶ所しか指せない→99 角 88 角を指すしかない？→最初に戻る、で大迷走をしました。

☆ DD++さんは38手目16歩として、5)の条件で指定された「左の筋の方から右の筋の方に着手」とは逆方向に歩を突いてしまいました。それ以外は作意と同じ手順なので、単なるケアレスミスですね。ほとんど正解と言ってよいのですが、準正解として扱いました。

一乗谷酔象さん

真似将棋のアイデア、実は55-14「午後のマネ将棋」からいただいたものです。80手目の王手でない29着手の謎は解けたでしょうか？

☆ 真似将棋という条件を付けた推理将棋のルーツはDD++さんの『午後のマネ将棋』だそうです。この作品は第55回WFP作品展で55-14として出題しています。本局の手順が直接参考になるわけではありませんが、行き詰ったときに先入観を打破するヒントはあるかもしれませんよ。



【総評】

幻想咲花さん

WFP の存在自体はずっと前から知っていましたが、本格的に読んだのは今月号が初めてです。まさか本誌で初めて解いた作品がグラスホッパー入り PWC 天竺協力自玉詰になるうとは。どういう奇跡か解けてしまったので初解答を送らせていただきます。

かしこですら日の浅い人間が修羅の世界に迷い込んだと思われるかもですが、もちろん自分から足を踏み込みました。上田吉一という天才作家に直接刺激を受けた。理由はそれだけです。

当然かしこを捨てた訳では無いので常連となるのは難しいかも知れませんが、こちらの世界でも何卒よろしくお願ひします。

☆ こちらこそよろしくお願ひします。

フェアリーの世界は「隣は何をする人ぞ」的な側面があり、誰でも得意分野以外のルールの作品を解くのは困難です（本作品展の解答者が少ないのはそれも一因です）。最初はすべてを解こうとせず、興味を持ったものだけ選んで解答してください。

変寝夢さん

いやー、キルケはまったく解けませんでした。詰め上がりの方向性が分かっても中盤の手の進め方がさっぱり見えません。とりあえずのセオリーとしては、同じ駒を連合して持ち駒を稼ぐでしょうか。

橋圭伍さん

自作 9 題の内、何題に解答が入るかですが。良く見ると連続合がテーマだというのが分かるはずなので 54-9 位は解ける人が出て欲しいです。

54-8 も連続合の回数が何回か分かっていたら比較的易しいはず。

多くは、基本的な詰上りしか使っていないのですが手を出しにくそうな初形だったり駄目ですかね

最近、浮気が多くて解答に時間を割けなかったですが次回からは頑張ろうと思います。

たくぼんさん

まだ 1 題解けてませんが、明日バドの試合なのでとりあえず送っておきます。

占魚亭さん

締切りを過ぎてしまいました（すみません）、解けたものだけでも。

橋氏の連作は飛車が最終手に絡むシリーズ？ 全部解けなくて残念。

☆ 今月 10 日、母が入院しました。そのため、本作品展の原稿作成に割ける時間も減っています。しばらくは縮小気味の結果稿が続くかもしれませんが、どうかご容赦ください。

以上



推理将棋第69回出題解説

担当：DD++

出題：平成24年7月23日
 解答締切：平成25年8月20日

2013年に入って順調だったのについてやっ
 てしまいました、不完全作出題。推理将棋は完
 全な検討をするのが難しく、投稿作にもかなり
 の割合で不完全作が混ざっています。当然不完
 全でも出題に値する面白さだと判断されれば修
 正をお願いするわけですが、その完全性チェッ
 クも完全というわけにはいきません。今回から
 変寝夢さんが機械で解くことにチャレンジされ
 ていますがこれも全検しての余詰検討に使うの
 は難しそうで、結局不完全出題は頻度を減らす
 ことはできても永久についてまわる問題なの
 でしょうね。

69-1 初級 渡辺秀行作

41 飛生迄で詰み 9手

「さっきの将棋、41 飛生まで9手で詰んでいた
 ね」
 「そうだね、3筋への駒打より後に5筋の着手
 があったね」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・ 41 飛生まで9手で詰んだ
- ・ 3筋への駒打より後に5筋への着手があった
- ※ もちろん41 飛不成と書いても正解としますのでご安心ください。

出題のことば (担当 DD++)

41 飛生で詰む形はどんな形？

追加ヒント

飛を取るのには32地点。居玉のまま二段目を
 後手金銀で埋めましょう。

推理将棋69-1 解答

- ▲ 7六歩 ▽ 3二飛 ▲ 3三角成 ▽ 4二銀
- ▲ 3二馬 ▽ 6二銀 ▲ 3一飛 ▽ 5二金右

▲ 4一飛不成 まで9手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	科			王	飛		科	▲		一
			馬	馬	馬		馬			二
▲	▲	▲	▲	▲	▲		▲	▲		三
										四
										五
		歩								六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
							飛			八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香		九

持駒 金歩

41 飛生。9手で自飛車出動だと4筋歩を交換し
 てから飛び込むことにはなりますが、しかしそれ
 と連携する駒がありません。単騎詰も不可能な
 のでこれは失敗です。条件にも駒打ちがありま
 すしね。

ということで考えるべきは飛を打つ順ですが、
 実はこれは9手だと打って不成を指すだけでギ
 リギリ。初手76歩か96歩、3手目5手目と角
 を動かして飛を取り、7手目に飛を打って9手
 目に41 飛不成、1手の余裕もありません。つ
 まり飛車は3筋のうち直接41へ動ける場所、
 つまり31に打つしかありませんね。もちろん
 先手が31銀を取る余裕はないのでこれは後手
 がどこかへどけるわけです。

飛を取れる場所は32、42、62、82と4箇所あ
 りますが、62と82はそこに残った馬が41の
 飛と連携しないので論外。42で取る場合は飛車
 の打ち場所確保に32銀と上がることになりま
 すが、それが今度は41に利いてしまっただけ
 も失敗。

正解は32で飛を取る順で、「76歩、32飛、33
 角成」ときたところで「42銀」と受けて31地
 点を空けます。あとは後手が52と62を埋めれ
 ばいいので、条件から52を後に残して「32馬、
 62銀、31飛、52金右、41 飛不成」という手順
 になります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

渡辺 「「76歩、?、角、?、角(馬)で飛取、?、31飛、5筋着手、41飛生」ということが直に分かるので簡単かと思います。」

■初手96歩から考える人はいないでしょうし、真っすぐ行けば答えですね。

チャンプ「プレス機を押し込むような詰み上がり。作意は変わりますが、私なら条件を41飛生までの9手&銀の着手は無かったにしたいなと思いました。」

■そして送られてくる「76歩、34歩、22角成、32飛、同馬、62金、42飛、52金上、41飛不成」。

斧間徳子「条件を見ただけで、作者がだれかわかりますね。」

■〇〇より後に××、は渡辺さん以外使う人がいませんからねえ。

隅の老人B「2手目に32飛、ハイ、正解。これで良いかな?二つ目の条件を読み直す。」

■ハイ、お見事。

橘圭伍「相変わらず限定の仕方が巧いですね。」

■検討してみると実はこれがただの限定ではなく数々の余詰を際どく潰しているんですよ。

EOG「最終手が分かっていると気が楽。」

■初級だとそうですが、上級だとそれが開き王手だったりするので油断なりません。

ジェシー「金銀の順序が限定されているのが格好いい。」

■渡辺さんの限定は本当にテクニカル。

NAO「7手目以降の条件に導かれるままに解けました。」

■非常に親切な問題でした。

変寝夢「初手76歩5手目飛車取り7手目42OR31に飛打として、解析186万局面1分30秒。32での飛取りは意外でした。」

■9手なら7手目31飛打だけの決め打ちでも十分速く答えが出そうですね。

たくぼん「最近難しいのが多いので何とかすぐ解けてちょっと一安心。初級は大事ですね。」

■いい初級といい上級は基準が全く違うんですよ。

平井康雄「31飛から41飛生とするならこれしかないですね。42飛と打つ方が手順的には面白そうですが……。」

■「42飛と打つ方」に該当するものがいっぱいあるんですけども、ということで限定も大変になるのです。

はらたつ「私にしては珍しくファーストアタックで解けました。」

■おおっ、おめでとうございます。

chemical「最終手で詰み形が大体判断できました。」

■これで42玉や31玉なんてことはさすがにないでしょうね。

鈴川優希「9手で飛不成が可能とは、驚きました。条件は単純に、「7手目は5筋」ではダメですか?」

■「8手目は5筋」ですかね? 42に飛車を打つ順がかなりあります。一例にチャンプさんの短評のところに書いたもの。

占魚亭「最初、金を上げて失敗(苦笑)。」

■仮に31飛と打てたとして、不成を指す前から玉まで素通しです。

キリギリス「41飛生ということで△41金が動けないので、2段目の壁形が決定できました。」

■ここまで綺麗に決定されるのは非常にまれですね。普通は金の左右どちらか飛車も候補に入るので。

やまかん「生まで9手。最終手がわかるのでわかりやすかった。」

■飛生まで9手の場合は何手目に何をするか丸分かりなのも大きいですね

正解：19名

EOGさん HMさん 斧間徳子さん キリギリスさん Chemicalさん ジェシーさん
しまぎろうさん 鈴川優希さん 隅の老人Bさん
占魚亭さん たくぼんさん 橘圭伍さん
チャンプさん NAOさん はらたっとさん
平井康雄さん 変寝夢さん やまかんさん
渡辺さん

69-2 中級 チャンプさん作

少年の将棋は？(その4) 11手

少年A「7手目に君が初めて大駒を動かした将棋、その後どうなったか教えてよ。」

少年B「どうなったと言われても、11手で詰ませて勝っただけだよ。」

少年A「それだけでは何も分からないよ。」

少年B「後手は6筋のみの着手で同じ駒を連続で動かすことは無かったよ。」

少年A「666・・・これは・・・。」

少年B「どうかした？」

少年A「何も思いつかなかったや(笑)」

少年B「・・・。」

さて、どんな将棋だったのだろうか？

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・7手目に初めて大駒(飛か角)が動いた
- ・後手の着手は6筋のみで同じ駒を2手連続で動かすことは無かった

出題のことば(担当 DD++)

詰め上がりが思いつかないと上級より苦勞するかも。

追加ヒント

実は先手も1つの筋の着手だけ。さりげない居角のアシストがポイント。

推理将棋 69-2 解答 担当 DD++

- ▲7六歩 △6二玉 ▲7五歩 △6四歩
- ▲7四歩 △6三玉 ▲7八飛 △6五歩
- ▲7三歩成 △6四玉 ▲7四飛 まで11手。

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金			金	銀	桂	香
二		飛							角	
三	歩	歩	と		歩	歩	歩	歩	歩	
四			飛	王						
五				歩						
六										
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八		角								
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 歩

後手の着手は6筋のみ。4筋のみとの最大の違いは、33角成としたときに合駒ができるかどうか。6筋はこれができないので角で攻めにくいのです。まして大駒の初動は7手目。これをどう捉えるかでこの問題の解答時間は大きく変わったのではないのでしょうか。

推理将棋の常識に邪魔をされるとこの問題は難問になります。短手数推理将棋では飛車よりも角、というのはもはや常識ですね。それは76歩の1手で出動できて速さに優れているから。しかし、もし仮に最初に小駒ばかり指さなければいけないとなれば、どうでしょう。飛車でも角でも初動は7手目で優劣はなく、さてその後の指し回しに自由が利くのは飛車か角か。それはもちろん飛車の方、とは考えられないでしょうか。

加えて大駒の使い方は限られます。7手目はもちろんのこと、9手目にすら有効な駒を取るのには角でも飛車でもほぼ無理。唯一 22 角を角で取る手はありますが馬が 6 筋玉から遠ざかりすぎてダメですね。となれば出動した大駒と自陣から持っていった小駒で詰ませるしかありません。

この2つの考えをあわせると、1つの詰め上がりが増してきます。それは歩を4回突いて成り、その下に飛車を進めて四段玉を詰める形。後手は同一駒を連続着手できませんが、62 玉～64 歩～63 玉～65 歩～64 玉でギリギリ四段玉に届きます。

では先手は。玉の隣の筋で攻めるということで、56 歩～55 歩～54 歩～58 飛～53 歩成～54 飛でどうでしょう。詰んでそうにも見えませんが、75 地点が空いています、残念。だとしたら左右逆に7筋でやっても同じくダメ……？

いえいえ、それがそうでもありません。5筋でやった場合と7筋でやった場合の違いは、初手の歩の手に別の価値があるかどうか。つまり初手 76 歩の場合に限っては、ついでに角筋が通るために 55 地点に逃げられず詰みになるのです！

それではみなさんの短評をどうぞ。

チャンプ（作者）「こんな条件で意外にも先手の着手が7筋のみの制限になっている点が狙いとなります。自作の中でもお気に入り度の高い作品の一つです。皆さん楽しんで(悩んで)頂けたでしょうか？」

■私は最初に作意順を考えて、しかし 55 に逃げられるから詰んでいないと思い込んでしまい難渋した苦い記憶が。

斧間徳子「後手玉の動きが尺取虫のようで面白い。」

■「同じ筋だけど連続着手禁止」だと大抵こんな感じになりますね。

隅の老人B「最初、角の出動と思い込んで苦戦。作者はニコリかな。」

■どうでしょうかね。そこまでヒッカケ狙いでもなかったようですが。

橘圭伍「じわっと効いている角が良い」

■しかし暗算でやるとこういうのは見落としがち……。

EOG「詰上りの想定が難しかった。玉と歩を交互に動かす条件付けが良い。」

■実はけっこう便利な条件付けだったりします。

ジェシー「玉を6四に上げて5五馬」とか、「6八飛から最後は7二金・6二銀・同飛成」とか、「6八飛から6二飛不成～6一金」とか、「玉を6三か6四に上げて6五桂～5三角成（それでもだめなら4五桂から）」とか、「5八飛から5筋突破」とかいろいろ考えたのに、7筋突破というのだけが盲点でした。」

■81 桂があつて 73 は攻められない、という感覚があつたのでしょうかね。

NAO「玉尻の塞ぎ方が解らず難問でしたが73歩成がありました。」

■なんと、NAOさんが難問と仰るとは。

変寝夢「5手目74歩と指定して解析175万局面2分30秒。先手の手順で条件付けもできそうですね。手順を出して条件を募集すると行ったこともできるのかな?。」

■WFPとかでならできそうですね。解答募集はできないのでおもちゃ箱ではちょっと難しいですが。

たくぼん「第一感は65桂+53角成。全然違いました。不調です。」

■玉位置が62でも63でもけっこう逃げ道スカスカですね。やはり暑さは大敵ですか。

渡辺「これで詰んでいるんですね。」

■不安になりますよね。

平井康雄「最終ヒントを見るまでは想像もできず苦戦。初手は 76 歩以外には考えにくいので 7 筋だけで動かしていったら、必然的にこうなりました。」

■ひょっとしてとさえ思えばあとは一瞬なんです、発想が出ないとどうにもならないのがこの手の問題のつらさ。

はらたっと 「5 筋では足りずじゃあ 7 筋でした。」

■これで左右片側しか詰まないというのも不思議な感触ですよね。

chemical 「先後 1 筋ずつというのがいいですね。」

■手順の統制的美しさはチャンプさん作で随一。

鈴川優希「先手も 1 つの筋だけだと条件に出さないところが厄介。追加ヒントがなければ解けませんでした。」

■おそらくほとんどの人が「先手も後手もそれぞれ 1 つの筋に着手」と条件付けするであろうところ、あえて片方隠したのがいい味出しています。

占魚亭「詰上りが全く見えなくて大苦戦。ヒントがなかったら降参していました。」

■実戦ではまずこんな詰みはお目にかからないでしょうしねえ。詰将棋なら探せばいくつかは出てきそうですが。

キリギリス「はじめ、6 筋が壁で 4 筋から攻めると考えましたが手数が足りませんでした。」

■41 金をどかせないので 41 桂成とかで詰ますことになるんですかね？ 7 手目に角が動けるようになっても 33 角成と王手するわけにはいかず、41 馬までにできないのがつらいところ。

諏訪冬葉「ヒントを見て「居角を使うなら 7 筋」と考えました。」

■それ以外で居角を活躍させられたら奇跡。

正解：19名

EOG さん HM さん 斧間徳子さん キリギリスさん Chemical さん ジェシーさん しまぎろうさん 鈴川優希さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん 占魚亭さん たくぼんさん 橘圭伍さん チャンプさん NAOさん はらたっとさん 平井康雄さん 変寝夢さん 渡辺さん

6 9 - 3 上級 鈴川優希さん作 プライドの代償 11 手

「昨日の将棋では、相手が角不成の手を指して挑発してきた。売られた喧嘩は買う、というのが私のやり方。互いに意地を張り続けた結果、計 6 回も角不成が登場した。しかし、あの三段目の手が敗着で、結局は 11 手で詰まされてしまった。腹が立つのは奴の五段目の手だ。角の手でもないのに駒音高らかに指しやがって」

(条件)

- ・ 11 手で詰んだ。
- ・ 角不成が 6 回あった。
- ・ 後手は三段目に着手した。
- ・ 先手は五段目に角以外を着手した。

出題のことば (担当 DD++)

まずは先後それぞれ何回角不成を指すのから。

追加ヒント

打った 55 飛の利きを使って詰み。後手は 99 で取った香を有効活用しましょう。

推理将棋 6 9 - 3 解答 担当 DD++

▲ 7 六歩 ▽ 4 二飛 ▲ 3 三角不成 ▽ 5 二玉
▲ 4 二角不成 ▽ 9 九角不成 ▲ 5 三角不成

▽ 3 三角不成 ▲ 5 五飛 ▽ 4 二香 ▲ 4 四角不成 まで 11 手。

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	香		香	爵	科	皇	一
				王	皇				二
歩	歩	歩	歩		歩	馬	歩	歩	三
					角				四
				飛					五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩2

11 手で角不成 6 回。この手の条件では先後それぞれ何回ずつそれをやるのか、から考えるのが定石です。まず先手 6 回というのは明らかに不可能。先手 5 回後手 1 回というのも先手は 3 手目以降角不成しか指してないことになるので、指せたところで明らかに詰みにはなりませんね。逆に先手 2 回後手 4 回などというのも今度は後手が 34 歩と角不成だけになるのでダメ。先手 4 回後手 2 回か先手 3 回後手 3 回というのが回数分担のようです。

さてここで鍵になるのが何気ない雰囲気で行われている後手の三段目着手の条件。これは果たしていつ何を指した手でしょうか？ まず 2 手目に三段目着手はありえません。4 手目は 74 歩 73 桂などで指せないこともないですが、先手が 3 手目に 33 角不成と指せないのでは角不成が全く足りなくなります。ならばこれは 6 手目 8 手目 10 手目のいずれかで、88 か 99 から 33 角不成と戻ってくる手なのだとして自然に予想できるでしょう。

ではこれが再度先手陣へ不成で動くことはありえるのでしょうか？ 結論から言ってしまうとありません。というのは、この条件で先手の五段目着手を詰みに有効な着手とするには線駒を五段目から利かせる以外にないからです。つまり先手はどこかで 55 飛や 55 香と打つことになるため、それ以後は 33 から 88 や 99 への角不成が指せなくなるという仕組み。後手の角の動き

は 6 手目に 88 か 99 へ行って 8 手目に 33 へ戻って、それで終わりなのです。

これで枰が少し見えてきました。先手は 76 歩 33 角不成から始め、途中で取った飛か香を 9 手目に 55 に打ち、残りは全部角不成の手。後手は 6 手目に 88 角不成または 99 角不成と指して 8 手目 33 角不成、他に角不成はなし。

さてここでひっかかるのが一体これでどんな詰みがあるのかです。55 飛香は動かさないわけですが、これを紐に 53 角不成までと考えると 52 地点が埋められませんし、51 角不成までだと金をどかした後の 41 や 61 が埋まりません。はて、と考えたところでこの手順一番の山場の最終手に気づけば解けたも同然。44 角不成で 5 筋の後手玉に開き王手をしつつ後手 33 角の利きを 55 から外す鮮やかな一手がこの手順の最終手なのです。

残りは後手の 42 飛 52 玉、先手の 42 角不成 53 角不成は考えるまでもないとして、あとは 44 角不成の時に空いてしまう 42 地点のケア。普通は離れた王手の詰みを目指すには後手に持ち駒は持たせたくないところですが、この問題の場合は 99 角不成とあえて香を取り、42 を埋める駒を補充するのが正着となります。

なお、当初の条件での余詰順はこちら。

- ▲ 7 六歩 ▽ 5 二玉 ▲ 3 三角不成 ▽ 6 二金
- ▲ 4 二角不成 ▽ 8 八角不成 ▲ 5 一角不成 ▽ 3 三角不成
- ▲ 同角不成 ▽ 4 四歩 ▲ 2 五角

これははなさかしろうさんからの指摘順ですが、NAOさんからの指摘もほぼ同一順でした。なるほど必要な回数角不成を着手したら後手角は取ってしまってもいいのですね。

そしてもう一つ、最後 44 角不成を指して 55 飛で普通に王手して詰ませても条件を満たしてしまっただという痛恨の見落としがありました。44 角不成が鮮やかすぎるために、鈴川さんも私も見逃し、解答者も締切間際まで誰も気づかないという不思議な非限定でしたが、作品として不完全であったことには何ら変わりはありません。

気付かずに採用および1度目の修正の受諾をしてしまったことを深くお詫び申し上げます。

それではみなさんの短評をどうぞ。

チャンプ「これは良い作品ですね。もはや新人作家とは呼べないほど完璧な仕上がりになっていると思います。こういった作を見るとまた創作に力が入ります(笑)」

■しかし余詰という点に関しては完璧からほど遠かったという。

斧間徳子「唯一に限定されるような手順を考えたらあっさり解けましたが、正攻法で考えると難問になりそう。条件付けの巧みさに感心しました。」

■飛車の代わりに99香をラリーして使う紛れを考えだすとけっこう大変でした。非限定解消の条件付加でまるごと消えましたが。

隅の老人B「角生が6回、これはある意味、大きなヒントですね。おかげで、69-2より簡単に解けて、これが上級？です。」

■開き王手は慣れていないと見えにくい、というのもあって少し難し目に見積もりました。

橘圭伍「角生の回数で手順を縛るのも今や古風な感じですね」

■流行したのは4年前くらいですかね？人もそこそこ入れ替わっているのが当時は見つからなかったものがいろいろ出てくると思います。

EOG「香を取るのが盲点だった。」

■玉方の駒取りが有効になるって感覚的に出てきませんものね。

ジェシー「飛か香を取って五段目に打つというのは想像がついたのですが、4筋で取るというのがなぜか盲点になってしまいました。最後は6二香・3一角ではダメというのが、ちょっと大道詰将棋っぽくてキュートですね。」

■加えて33角不成と引き戻さない最後の同角が消せないというのも面白い点ですね。

NAO「作意の方の5段目着手は、第一感通り飛車でした。」

■第一感が飛車でありながらあの角を奪う余詰をすんなり見つけるのはすごい。

変寝夢「2手目42飛4手目52玉5手目42角生と指定して1億局面4時間。PCは最終3手が手順前後の順も解答。着手とは打を含まないということかな？。42香の意味づけがダブルなのが残念。」

■やはり11手だと時間かかりますか。42香については持ち駒消去の意味付けはない(そもそも88角不成でいい)ためダブルというわけでもないような。手順前後に関してはすみませんでした。

たくぼん「55飛の前に53角生が上手い一手。これで角筋が遮れる。」

■99角成ならまだしも、99角不成だと55への利きを消すためにこれだけ準備しないといけないという。

渡辺「後手の3段目着手と角生でない先手の5段目着手が微妙な感じで着手を制限しているのが面白い。終形が面白いので余詰は勿体無い。」

■これ、どっちな外れただけでもかなりいろいろあるんですね。余詰は本当にもったいなかった。

平井康雄「55飛打のヒントが決定的でした。これさえわかれば、詰上がりも想像できます。」

■ちょっとヒント出しすぎかなあと思いつつ大サービス。

chemical「先手の角は最後以外、不成が必須なんですね。」

■ですね。推理将棋では52玉の周りを生角がうろちょろするのは手筋です。

鈴木優希 「55 飛迄の非限定になぜ気付かなかったのか……。」

■そういう作者ならではの思い込みによる見落としを防ぐために私が追検討してるはずなんですけどねえ。うーん。

占魚亭 「銀を取って香を 51 に打つと思っていたので、この筋に気付くまで大分時間がかかりました。」

■その場合角を 42 か 62 に置けば香打ちは不要だったり。しかしそれでも「76 歩、52 玉、33 角不成、62 銀、51 角不成、88 角不成、62 角不成、33 角不成、45 銀、88 角不成、54 銀」で五段目に打った銀があと一步間に合いません。

やまかん 「これは作意は相当面白いですね。ヒントがなかったらわかりませんでした。」

■この面白い狙いがたった 11 手で実現できるというのだから素敵です。

正解：18名

EOG さん HM さん 斧間徳子さん
Chemical さん ジェシーさん しまぎろうさん
鈴木優希さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん
たくぼんさん 橘圭伍さん チャンプさん
NAOさん はなさかしろうさん 平井康雄さん
変寝夢さん やまかんさん 渡辺さん

総評

チャンプ「今月は早々に解答をさせて頂いたので、創作に時間を取りたいと思います(笑)」

■また3題ともチャンプさん作が並ぶ月がきたりするのでしょうかね。

斧間徳子「今月は夏向きの軽快作特集ですね。」

■94 形式と2ヶ月連続で軽めの出題になりますね。

隅の老人B 「7月下旬、今月はヒント前の解答のチャンスとのこと。ならば、挑戦してみるか、

DD++さんの言に嘘は無し、ですね。」

■言に嘘はなかったとしても、言外の「出題されるのは完全作」が嘘となってしまった今回。

橘圭伍「3は解説が出る頃にはもう少し良い修正になっている事を期待したいですね。1の条件付けは氏以外使ってないが作りやすそうです」

■2回目の修正だけで最初の余詰も消えるので、「先手は途中で五段目に着手したが不成ではなかった」でよさそう。

NAO 「今月はチャンプさんの中級に苦戦。解けたと思ったら直前ヒントが出てました。悩んだ分損したのか、楽しんだ分得したのか？」

■決して苦しむために解いてるわけではないのですから、楽しんで得した方でいいと思いますよ。

変寝夢「実は今推理将棋検討ソフトを試しているところです(ウン年仕事になると思いますが)。今回の解答は全て機械で抽出し、人間の手で選別しております。具合が悪ければ、無解扱いにさせていただいて結構ですし、ペンネームを変寝夢 Jr にする等でも結構です。短評的には昔高田淳一氏が行っていた方法に近い形にしてるはずですが。」

■同じ方法での解答は鈴木さんが何度かやってらっしゃいますので問題ありません。が、やはりご自分の頭で解図を楽しむのも両方やっていただけなのが理想ですね。

変寝夢「与えられた条件だけでは相当時間がかかりそうなので、その他のオプションをつけて解答させました(そうでないと16歩、12香から読んでしまうとウン十時間はかかりそうなので)。いやー推理将棋奥深しです。これで安南とか対面とか入ると……。それってありですかね？」

■けっこう大胆に決め打ちしてもなおこれだけかかるのですね。局面数は指数で増えることを考えると王手制約がない推理将棋は問題ごとに

効率よく探索する方法を人の手で入れてやらないと11手とかでも現在の家庭用PCのマシンパワーでは全検は無理なんではなかね。

たくぼん「暑いときにはこれ位の難易度が良いですね。」

■第70回はさらに簡単になっています。

しまぎろう「94問題楽しみです!!」

■しまぎろうさんの初登場、好評だといいですね。

渡辺「推理将棋の解答です。今月もぎりぎりの解答提出です。先月よりは解き易くなっていると思います。」

■さらに簡単な第70回を経て、第71回の反動が怖いですね。

渡辺「おまけの問題:「96歩、52金右、97角、32銀、以下9手で詰み」で限定。」

■2手目はさすがに52金左の誤記だと思いますので、正解とします。後手は先に金銀を上げればよく、そのために先手は33でなく53に角を成るようにすればいいわけですね。

chemical「今回は全て解けました。次も頑張りたいです。でも、余詰めと非限定まではわかりません…。」

■とか言いながら既に作品投稿までしてくださっているchemicalさん。将来有望です。

鈴川優希「練習問題の解答は、76歩、32銀、44角、52金左ですか？解答者に推理将棋を作らせつつ余詰検討させる、斬新な問題でした。次の投稿はもっと徹底的に検討してみます……。それでは失礼します。」

■はい、角は97でなく44の方でも正解ですね。

占魚亭「今月は中級が一番難しかったです。」

■同様の意見が多数あって驚いています。

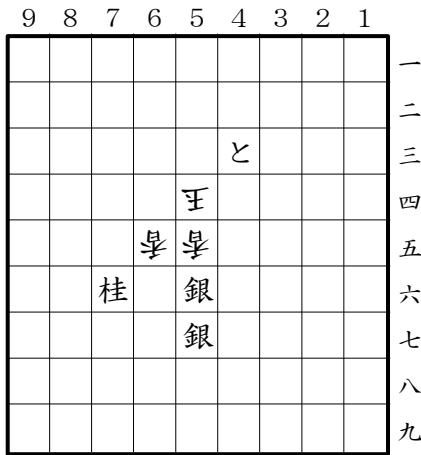
推理将棋第69回出題全解答者： 21名

EOGさん HMさん 斧間徳子さん キリギリスさん Chemicalさん ジェシーさん
しまぎろうさん 鈴川優希さん 隅の老人Bさん
諏訪冬葉さん 占魚亭さん たくぼんさん
橘圭伍さん チャンプさん NAOさん はな
さかしろうさん はらたっとさん 平井康雄さん
変寝夢さん やまかんさん 渡辺さん

青木みどり氏フェアリー発表作品一覧

本年6月14日に二瓶誠氏がお亡くなりになりました。享年80歳。ご冥福をお祈りします。氏は青木みどり名（明石六郎・赤白黒に対抗して青黄緑）でフェアリー作品を発表されています。今回青木みどり名での発表作を当時の解説を含めて掲載します。ペンネームの多い方でしたので他のペンネームでの発表もあるかもしれませんが。記載漏れや他のペンネームでの発表作をご存知の方は一報頂ければ幸いです。

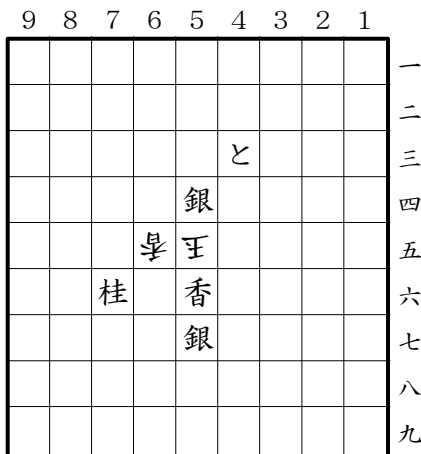
第1番 1993年1月 詰パラ 青木みどり ばか詰 5手



持駒 なし

55銀 45玉 54銀 55玉 56香 まで5手

詰上図



持駒 なし

【詰パラ解説・菊田裕司】

今年のフェアリーランドの幕開けはこの人、青木みどりさんです。イ→イの立体曲詰で、手順はしょうもないですが、大らかにこのユーモアを楽しみましょう。

駒井信久—ついに本物が登場。地味なようだが

うまく出来ている。

穂上武史—いかん。ほんとに古典になってしま

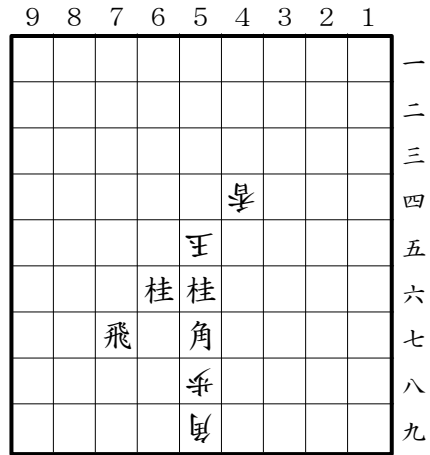
う。

水野亜美—「イ」に対するこだわりがいい。

周藤裕也—担当は「まさに客寄せ」という作品

を①にもってくるのがうまい。

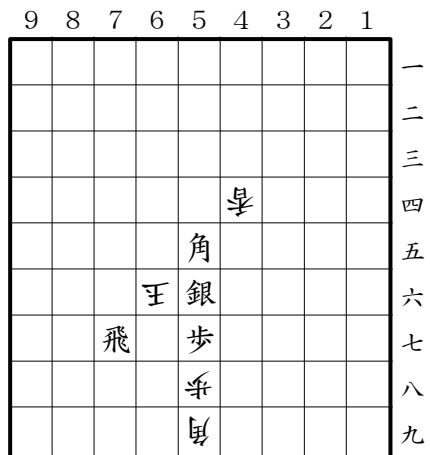
第2番 1993年9月 詰パラ 青木みどり ばか詰 7手



持駒 銀歩

46角 56玉 57歩 65玉 56銀 66玉 55角
まで7手

詰上図



持駒 なし

【詰パラ解説・菊田裕司】

秋元節三—例によってイイ！

亀井陽東—毎度のことながらやりますね。

喜多真—立体曲詰。これはイイですね。創作は難しそうです。

中山美保—しょうもない。

☆ 不動駒は飾り駒ではなく、余詰消しです。

確認してください。

第3番 1994年1月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 5手 余詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
				角					二
	銀								三
	王								四
									五
									六
	銀	角							七
									八
									九

持駒 なし

85角上 73玉 74角引成 95玉 84馬
まで5手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	銀								三
	馬								四
	王	角							五
	銀								六
									七
									八
									九

持駒 なし

【詰パラ解説・石黒誠一】

- ☆ 最近投稿の多い作者ですが、殆どが潰れています。そろそろ検討のこつもつかんでほしいところです。
- ☆ 本作は詰上りが狙いでしたが、余詰が成立してしまいました。
- 余詰-74角成、93玉、83馬、同飛、94飛迄。
- 86飛→龍とすれば完全です。
- 秋元節三ーまさか詰上りイだなんて言わないでしょうね。
- 宮谷保可楽ー狂しいイだが、詰上りのきれいさは買える。
- ☆ 作意解者が殆どいません。前担当者にかわってお詫びいたします。ごめんなさい、
- ☆ 74角成、73銀、83馬、95玉、94飛までの解等がありました。これは、まだ93対の余

地があり、詰んでいないので本来なら不正解ですが、無駄対についてはまだはっきりしていませんでしたので、今回だけ○にします。

- ☆ 今後はすかし詰と同様に、ばか系で、抵抗の余地のある詰上りは認めませんので、注意してください。

第4番 1994年5月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 5手 余詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
	銀	銀							三
	王	歩							四
									五
									六
		香							七
									八
									九

持駒 桂

84香 同龍 86桂 95玉 85歩 まで5手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
	銀								四
	王	歩							五
		桂							六
									七
									八
									九

持駒 なし

【詰パラ解説・石黒誠一】

これは難しそうに見えますが、実は紛れが少ないので簡単です。最後、同龍と取れそうですが、その瞬間、86桂=龍になるので、王手を回避出来ていません。よってこれで詰みとなります。あぶり出し「イ」ですね。

余詰

- ・ 84香 同玉 96桂 95角 85歩 迄

- ・ 84 香 同玉 96 桂 95 金 85 歩 迄
- ・ 84 香 同玉 96 桂 95 銀 85 歩 迄
- ・ 84 香 同玉 76 桂 75 角 85 歩 迄
- ・ 84 香 同玉 76 桂 75 金 85 歩 迄
- ・ 84 香 同玉 76 桂 75 銀 85 歩 迄

第5番 1994年5月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	將	王						一
兵	玉								二
			角						三
銀									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

64 角生 73 桂打 同角生 72 飛 74 桂
まで 5手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	將	王						一
兵	玉	銀							二
		角							三
銀		桂							四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【詰パラ解説・筒井浩実】

- ☆ セオリー通り桂を奪うのですが、最後は頭桂ではなく普通の桂の利きで王手。変わった味の詰上りです。
- 村田秀作－「角生と飛対」。難しかった。
- 藤沢秀樹－ほのぼのとした作品。
- 秋元節三－イの字にならなくて不安。
- 佐藤善起－すごい詰上りである。
- ☆ 成生非限定と指摘した人もいましたが、成ると73飛があります。

☆ 61 金は 71 角生、72 玉、63 銀、61 玉、62 銀成の防ぎ。

第6番 1996年1月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								王	二
							將		三
						銀	兵		四
						銀	香		五
							歩		六
									七
									八
									九

持駒 歩

14 歩 同玉 25 香 13 玉 14 香 同玉 36 歩 25 玉
26 歩上 まで 9手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
							將		三
						銀	王		四
						銀	歩	歩	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【詰パラ解説・筒井浩実】

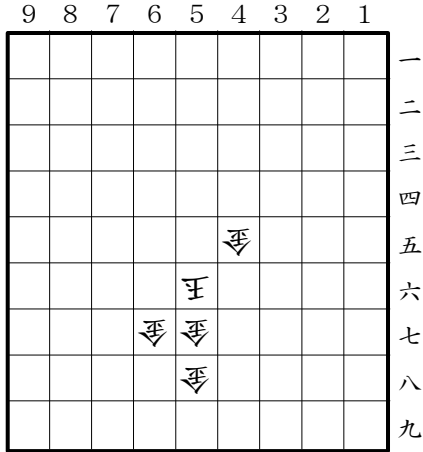
- ☆ 本作は、二歩禁の法則問題で、冒頭に書いたように、大量の誤解者を出してしまいました。
- ☆ 誤解者は、4 手目同玉として、47 歩以下で詰めています。47 歩は二歩禁のため王手ではありません。
- ☆ 作意は、歩の王手に対して突進するのが狙いとのこと。
- 駒井信久－46 馬は誤解狙いの意味も込めた飾り駒では？
- 喜多真－「イ」の字もここまできると最高。

詰上りが新鮮。

あーくんー立体曲詰とはいえ法則がらみで、作意がわかりにくい。

☆ 飾り駒 46 馬が、思わぬ結果をもたらしました。解答者 61 名内、誤解 38 名、無解 16 名、正解 7 名

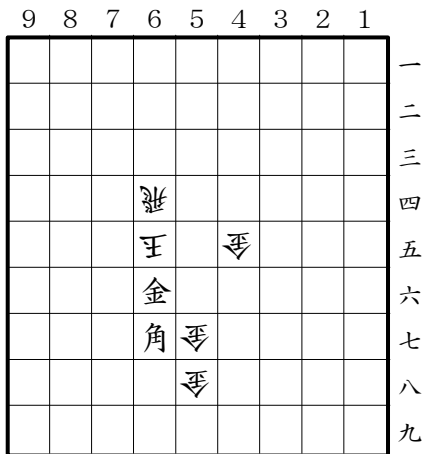
第 7 番 2006 年 1 月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 5 手



持駒 角

65 角 64 飛 67 角 65 玉 66 金 まで 5 手

詰上図



持駒 なし

【詰パラ解説・片岩裕貴】

☆ 角だけでは詰まないのでもう 1 枚何かを手に入れなければなりません、65 角と打って飛対させて金を取るのが正解です。これで 65 玉に 66 金とすれば、同玉と取るのは 67 角が玉の動きになるので出来ませんし、玉が金の動きになっているため逃げる手もありません。よって、66 金までで詰みとなります。対面ではよくある詰上りですが、2 手目の飛対が最後の玉の逃げ道を塞いでい

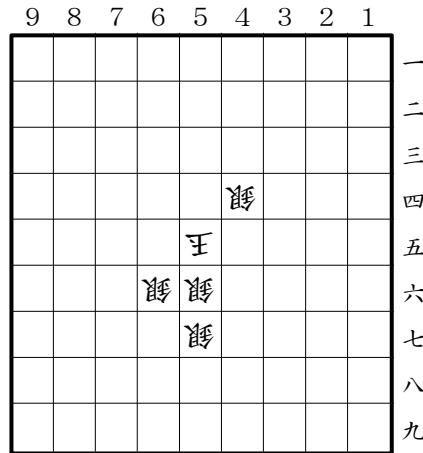
るのがよくできていると思いました。

弘光弘一飛を対して金を取る狙いがおもしろい。小五郎一角が飛に変身してずっと引けるところが楽しい。空中で詰ました感じ。

須川卓二ー見事な金のイ。新年にふさわしい。市村道生ー初手 46 角が第一感。64 飛は受けの妙手。

☆ 誤解は 46 角、44 金、57 角、45 玉、46 金迄というものや、46 角、54 金、57 角、55 玉、56 金迄というもの。前者は 44 金が、後者は 55 玉が出来ません。

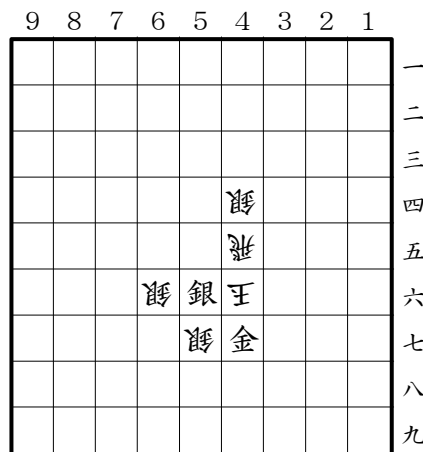
第 8 番 2006 年 1 月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 9 手



持駒 桂

47 桂 46 金 56 桂 同金 46 銀 45 飛
56 銀 46 玉 47 金 まで 9 手

詰上図



持駒 なし

【詰パラ解説・片岩裕貴】

☆ 前問が金の「イ」だったのに対して、本問は銀の「イ」です。初手は 47 桂しかないのですが、それに対する 46 金が妙手。56 桂、

同金としてからの 46 銀には飛対が正解で、これで金を手にすることが出来ます。最後の 47 金に対して 35 玉と逃げられそうですが、玉は金の動きになっているので逃げられません。56 での駒取りが繰り返されるのではがし趣向のような印象を受けます。

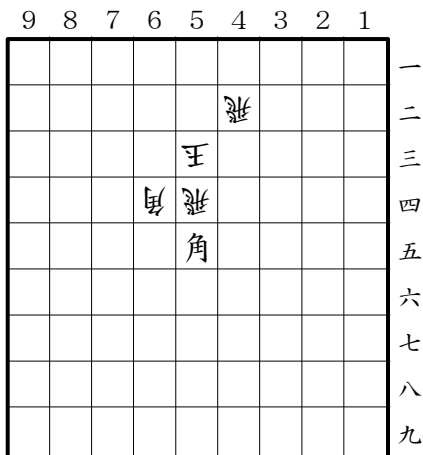
佐藤善起－対駒 2 枚ですばらしい手順。
弘光弘－持駒を変換していくプロセスがおもしろい。

波多野賢太郎－対面ルールを生かした手が多く楽しかったです。

浜崎歩－一度解いたはずなのに、解答を書くときになって思い出すのに一苦労。

☆ 作者は普通かしこでも「イ」の字にこだわりを見せるその道の大家です。フェアリーではまだそれほど発表作がありませんが、独自の道を進んで欲しいです。

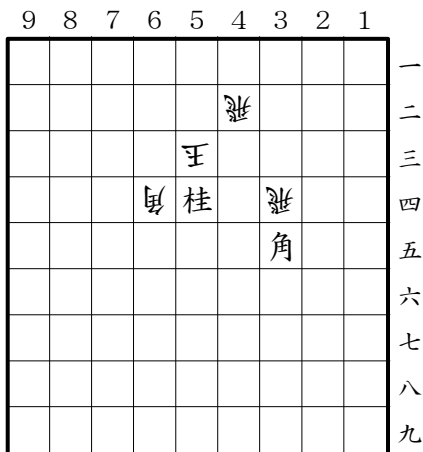
第 9 番 2006 年 5 月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 3 手



持駒 桂

35 角 34 飛 54 桂 まで 3 手

詰上図

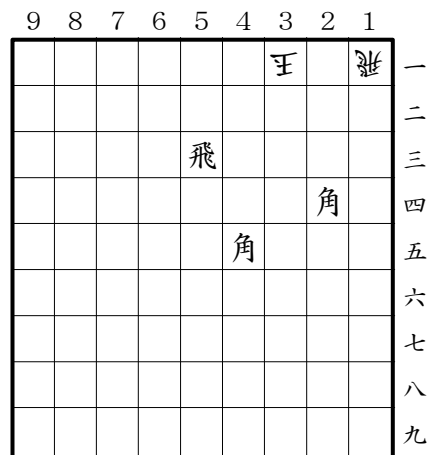


持駒 なし

【詰パラ解説・片岩裕貴】

安南では玉を弱い駒の上に乗せるのが急所でしたが、対面では玉の頭に弱い駒を動かすのが急所となります。特に、本作のような「頭桂」は玉で取ることができないので、非常に強力です。2 手目の 34 玉のような「王手している駒の動きを変えて王手を防ぐ」ことを対駒と呼んでいます。この 34 飛の移動対には角を飛の動きに変える意味と 54 に桂打のスペースを作る意味があつて、意味付けがダブっていますが、作者としては、そこは初形が飛角図式の「イ」なので大目に見てくれ、というところでしょうか。

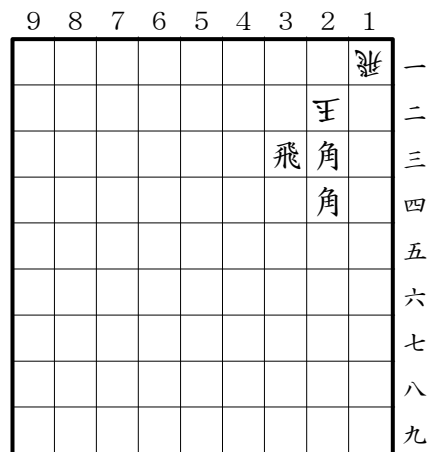
第 10 番 2007 年 10 月 詰パラ
青木みどり 対面ばか詰 3 手



持駒 なし

33 飛生 22 玉 23 角生 まで 3 手

詰上図



持駒 なし

【詰パラ解説・片岩裕貴】

☆詰上り「イ」。不成が 2 回出てくるが意味合いが違う。最終手成だと 21 に逃げられてしまう。

たぶん七郎さんだったと思うんですが、そしてたぶんカピタン誌でだったと思うんですが、提示された詰手順から、それが作意になるような図面を「逆算せよ」というような問題を提案されていませんでしたっけ？

実際やろうとすると、図面を限定するのはなかなか難しそうです。例えばこんなものでも、なかなか限定できません。

【問題】

次の詰手順が作意となるばか詰を逆算せよ。

詰手順：39 角、28 香、29 桂 まで 3 手

【作意】

ばか詰 3 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
						飛	飛		六
						飛	王		七
									八
								王	九

持駒 角 桂

不要駒未使用は大前提としても、16 飛は龍でも OK だし、攻方にして 25 に配しても OK。生駒のみの条件を追加すればいいかと思いましたが、それだとこんなものも成立してしまいます。

【余詰】

ばか詰 3 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
							飛		五
						飛			六
						飛	王		七
									八
								王	九

持駒 角 桂

これら（36 飛は 46～96 飛でも OK）を排除できる気の利いた条件は思いつきません。

この作に限らず、こんなに軽い条件で完全限定できたぜ、というのができましたら、ぜひ WFP でご紹介くださいませ、皆さま。

参加決定

神無太郎

来年 2014 年の第 30 回詰将棋全国大会の予定が全詰連ホームページに掲載されていますね。7 月 20 日に川崎でとのこと。沼津からは青春 18 きっぷ 1 回分で往復できるナイスな日時、場所であります。というわけで、2000 年の第 16 回静岡大会、2002 年の第 18 回府中大会、2006 年の第 22 回横浜大会に続いて、8 年ぶりに 4 回目の参加決定です。この調子だとその次は 2030 年の第 46 回大会ということになるのですが、まあそれ（参加）はないでしょう。つまり次回が最後の参加ということになりそうです。

というわけで、第 30 回川崎大会では在庫の一掃処分を計画。

- ・「新約・神詰大全」5 冊
 - ・「Wonderous Stories」9 枚
 - ・「詰パラ」52 年分
- というところでしょうか。

「新約・神詰大全」は著者の一人である北村さんが未購入なのが気になっています。北村さん、早目に入手してもらわないと、来年 7 月にはなくなってしまうかもよ、です。

「Wonderous Stories」これはさすがに販売ではなくて、無料配付ですかね。欲しがる人が 9 人もいるかどうかは疑問ですが。

「詰パラ」52 年分はとても持ち込めません。最初の 1 年分だけですかね。うち 7 冊は正規とはいえリコピー版なので、これも欲しがる人がいるかどうか微妙です。



解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

9月25日(水)

王手が9割
推理将棋 1作

10月15日(火)

第55回 WFP 作品展
フェアリー作品 13作 推理将棋 1作

王手が9割(追加)
推理将棋 2作

上田吉一個展
フェアリー作品 3作

11月15日(金)

第56回 WFP 作品展
フェアリー作品 13作 推理将棋 1作

作品募集締切一覧

10月15日(火)

Fairy of the Forest #37

課題：6種以上または2種の着手駒
(投稿先)
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)
詳細は WFP62 号 P42 参照

10月14日(月)

「第39回神無一族の氾濫」作品募集

「第39回神無一族の氾濫」へのゲスト参加を募ります。
今回は募集テーマは特になく自由出品です。ルール、手数、難易度等に関係なく、皆さんの自信作をお寄せください。

ただ1題は通常の協力詰(ばか詰)を出題したいので、ばか詰枠を1とし優先して選題させて戴きます。

募集締切	2013年10月14日(月)
募集作品数	4+1(ばか詰枠)
送り先	神無七郎(janacek789@ybb.ne.jp) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1人何作でも投稿可。 メールの件名に「作品投稿」の語を入れてください。 採否は10月21日までに通知します。

あとがき

夏の暑さも和らぎ始め秋の気配が漂い始めました。解図には最適な季節とも言えるでしょうか。今月号は、上田吉一氏初登場、荻江香木氏が超長編で復活など話題満載の号となりました。上田氏のフェアリー作品はかなり以前に詰パラで発表されて以来の解図となりそうです。これは楽しみ。

そして荻江氏と言えはやり2008年 Fairy Top IX 長編 1位ばか詰 207手「チェイン」(OFM132回出題)を思い出します。苦勞して解けた時の感動は今でも脳裏に焼きついてます。皆さんも是非チャレンジ頂きまして解図の楽しさ・感動を味わっていただきたいと思えます。

*おぼかな作品展の当選商品ですが、現在創作中ですのでもうしばらくお待ちください。

たくぼん

2013年 第63号

Web Fairy Paradise

非売品
平成二十五年九月号
平成二十五年九月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市
発行兼編集人 須川卓二
発行所 Web Fairy Paradise 編集部
問合先 takuji@dokidoki.ne.jp